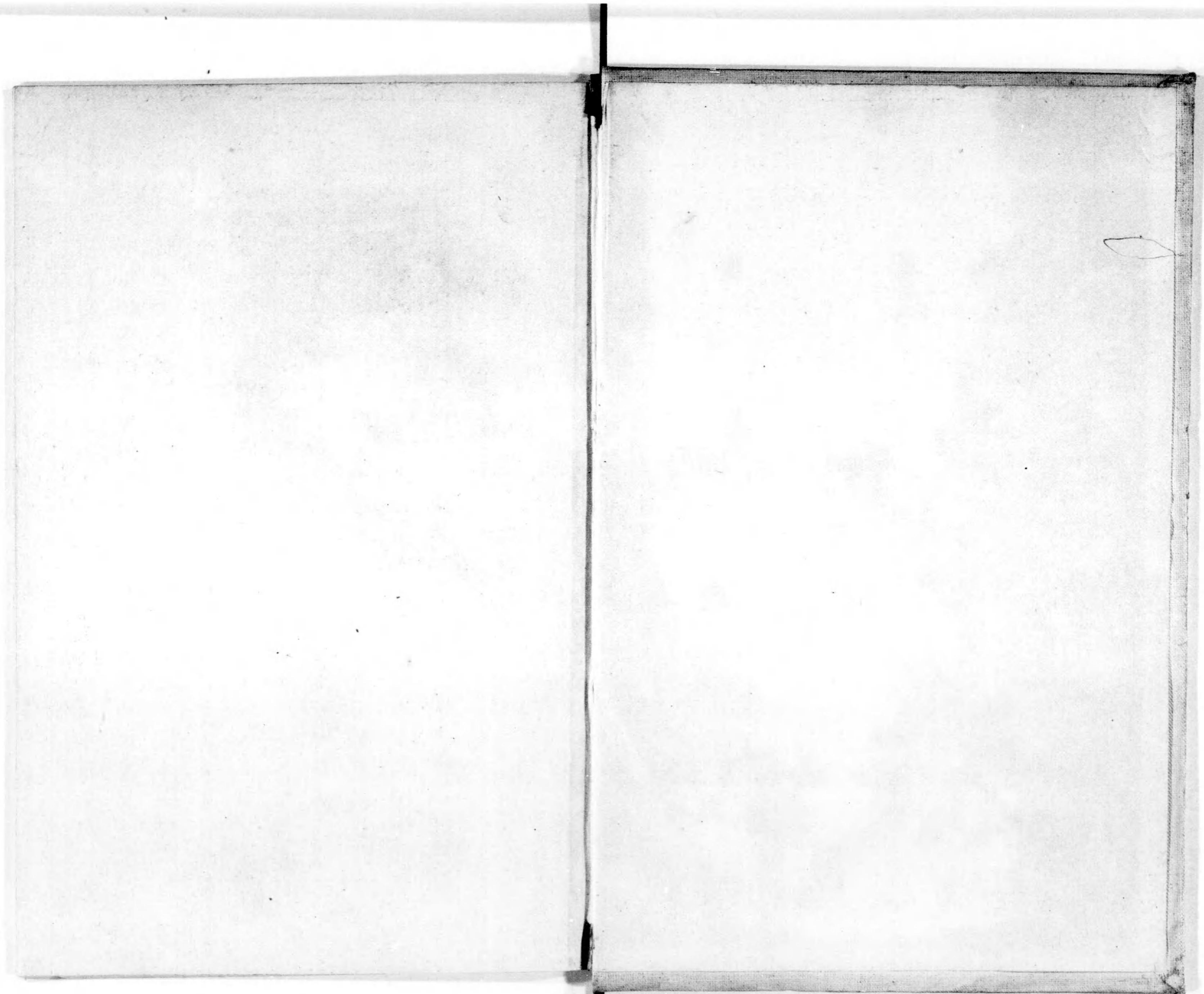


始



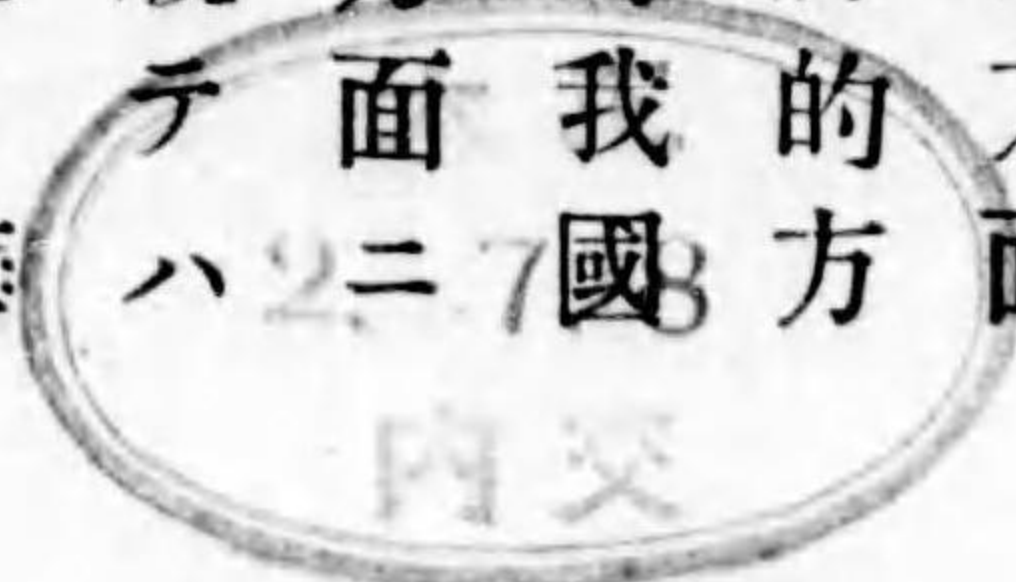
人物我觀





序

今ヤ世俗ノ所謂紳士ナル者ニ二種アリ即チ物質的方面
 ヨリ見テ以テ紳士ト稱スル者は是レ其一ナリ又精神的方
 面ヨリ觀テ以テ紳士ト目スル者は是レ其二ナリ現時我國
 人ノ普通ニ紳士ト稱スル者ヲ見ルニ主ニ物質的方面ニ
 偏倚スルノ感ナキ能ハズ邸宅ノ壯麗ナルモノヲ視テハ
 其誰ノ有タルヲ問ハズ紳士ノ邸宅ナリト云ヒ服裝ノ華
 美ナルモノニ遭フテハ其人ノ何人タルヲ知ラズシテ是
 レ紳士ナリト斷ズ何ゾ其誤レルノ甚シキ聞ク英國ニ於
 テハ子弟ノ動作規矩ヲ逸スルコトアランカ父兄ハ叱シ
 テ曰ク汝ハ紳士トナル能ハサルベシト又瀛車瀛船若ク



ハ公會ノ席上ニ於テ人ノ公德ニ背キタル行動アルトキ
ハ衆人舉テ紳士タル行爲ニ非ラズト擧蹙スト依之觀之
英國人ノ所謂紳士ナル者ハ精神的方面ニアルモノ、如
シ余ハ之ニ與セン飽食暖衣金殿玉樓ニ安臥スト雖モ其
心野鄙陋劣ナランカ余ハ之ヲ紳士トシテ待タサルベシ
茅屋柴門粗衣粗餐スト雖モ其精神高潔ニシテ人格衆ニ
超絶センカ余ハ之ヲ紳士トシテ崇敬スベシ知友岩崎君
紳士録ヲ編ス之ヲ繙クモノ思ヲ茲ニ致シテ熟讀玩味セ
バ裨益スルコト蓋シ鮮少ナラサルベシ

大正二年暮春

三 輪 蓬 葉

序

余聞沃土ノ民ハ佚ス故ニ淫ナリ瘠土ノ民ハ勞ス故ニ敏
ナリト夫レ人品ノ各其地ニ隨テ迥異アルハ古今一轍ニ
出ルガ如シ蓋シ天下ノ事有ルアラバ則無アリ難アレバ
則易アリ長アレバ則短アリ高アレバ則低アリ音アレバ
則聲アリ形アレバ則影アリ前アレバ則後アリ相生シテ
相成ルコト猶ホ天地ノ萬物ヲ生ジテ千變萬化相次デ己
マザルガゴトシ而シテ人民其中ニ生活シ一ハ以テ勞シ
一ハ以テ怠ル是其以テ古來其人ヲ淫ニシ其人ヲ敏ニシ
賢愚別ヲ成ス所ナリ我屢々沃土ニ居ル者ヲ見ルニ大概

皆其心ヲ虚ニシテ思慕無ク其腹ヲ實ニシテ食ニ飽キ其志ヲ弱クシテ趨競セズ其骨ヲ柔カニシテ精力ヲ養ハス此故ニ其民純朴ニシテ智識無ク欲スル所無シ其間機巧ノ心アリテ智欲腦中ニ萌ズ者アリト雖敢テ其智欲ヲ活動スル能ハザルナリ瘠土ノ民ハ則之レニ反シ思慕自ラ定リ骨力自ラ足り志剛ニシテ強ク趨競活動シテ事ヲ起スコトヲ好ム是故ニ古ヨリ豪傑ノ士多ク僻邑瘠土ニ生ジ以テ天下ヲ鼓動ス沃土ノ民風靡順從セザルハナシ此レ勢ノ最モ觀易キ所ナリ吾明石郷山水秀靈鱗穀富饒瘠土ヲ以テ之レヲ目スベカラズ方今天下ノ耳目大ニ革マ

リ百制弊ヲ剔ネ新ヲ圖ルコト譬ハ雲煙雷電ノ變幻シテ端倪スベカラザルガ如シ人心思慕スル所多シテ其精力ヲ養ヒ趣競活動智ヲ鬪ハシ巧ヲ戰ハス是亦虎狼ノ肉ヲ爭フガ如ク是時ニ當リ獨沃土ニ安坐シ淡泊ヲ甘守シ百念形ハレス嬰兒ノ未ダ孩セザル時ノ如ク乘乘然トシテ奮勉スル所無クシテ可ナル乎我決シテ其可ナラザルヲ知ルナリ岩崎章君明石郡内紳士録ヲ著ハシ成ル載ス所ノ紳士一百餘名蓋皆材能智識思慕精力共ニ悉ク具備スルノ士ナリ之レヲ他ノ饒土ニ棲息シ稻魚ニ飽キ蠶絹ヲ服シ地ハ凶年ノ憂無ク俗ハ慘愁ノ悲無ク輕易淫佚柔弱

褊陋智識庸劣精力衰敗足未ダ遠ク出テ外ヲ窺ハス徒ラ
ニ鷓巢ニ安ンズル者ニ比セバ實ニ寥寥ナラズ何ゾ夫レ
多キコト斯ノ如クナルヤ當サニ大ニ喜フ可クシテ未ダ
慶ス可カラザル者アリ抑我又聞ク所アリ曰山水ノ靈必
ラズ偉人ヲ生ズト即チ以テ吾郷ノ他日ヲトス可ノミ

大正二年三月中浣

十八洋頭居士 橋本徳撰

明石神社



舊藩主松平子爵とその筆蹟



任重而
道遠



大正三年二月日

高松山題



幾つか

録

松本

の

四の

目録

皇德

聖德深如不尋象思波
通滿日東之一船多化
神龍去場哭聲了忠義
万年

盛明陛下皇德山多德

後龍



目次

伏屋哲藏君	二七	市村久雄君	二七
鷺塚貞操君	三五	鈴木義一君	三一
奥田力君	三三	平野英吉君	三三
吉田彦松君	二二	橋本海關君	三五
井田竹治君	一九	上月爲陰君	三七
松村松年君	一七	堀尾好太郎君	三九
高橋靜海君	一五	杉山健吉君	四一
高田忠良君	一三	播磨請行君	四三
三輪信一郎君	一一	加藤清登君	四五
中川十全君	九	佐久間剛藏君	四七
今橋知勝君	七	小野寺秀太郎君	四九
松平直德君	五	小野寺強彌君	五一
卷頭に題す	一	蘆田順藏君	五二

(順序資料蒐集到着順)

藤本彌君	三浦幸彌君	柳川芳太郎君	金親雄君	菅敬藏君	國賀至君	安田半畊君	賀川滿陽君	添田兵造君	湊謙一君	湊謙治君	中川彥十郎君	井上徳次郎君	米澤長治郎君
.....
五三	五四	五五	五七	五九	六〇	六一	六三	六四	六五	六七	六九	七一	七三

米澤吉次郎君	松原益次郎君	石野半七君	鈴木武君	木下吉左衛門君	大山安治君	本岡武助君	前田孝典君	米澤裕君	淺田加穂君	小松光雄君	木下虎彦君	鏑木登喜雄君	佐野木延三郎君
.....
七五	七七	七九	八一	八三	八五	八七	八九	九一	九三	九五	九七	九九	一〇一

吉田順藏君	矢倉和三郎君	戸田秋嶺君	永田清吉君	筒井八郎君	村山辨治君	小野重雄君	黒石周次郎君	石原正憲君	藤尾耕助君	松林壯吉君	茶谷久吉君	野澤實之助君	今木健君
.....
一〇三	一〇五	一〇七	一〇九	一一	一一三	一一三	一一四	一一五	一一六	一一七	一一八	一一九	一二〇

村田泰輔君	山田齊君	大村駒治君	古谷虎雄君	中島護一郎君	菅原絢男君	岡田謙次郎君	鈴木木定君	木下庸太郎君	木岡重治君	長谷川治太郎君	山本福太郎君	平野末藏君	林鑛藏君
.....
一一二	一一三	一一三	一一五	一一七	一一八	一二九	一三〇	一三一	一三三	一三五	一三七	一三八	一三九

大橋	瑞宏君	一四〇
井上	政連君	一四二
加藤	寛瑞君	一四三
石本	文藏君	一四四
石本	元三郎君	一四四
吉野	治兵衛君	一四四
藤岡	音吉君	一四四
柳瀬	文藏君	一五一
杉本	松之助君	一五三
成定	庄兵衛君	一五五
伊藤	庄平君	一五七
岡部	文太郎君	一五六
竹村	鐵之助君	一五九
稻垣	甚藏君	一六〇

吉田	淳一君	一六一
興治	善次郎君	一六三
每熊	小三治君	一六三
溝口	稔君	一六四
故宮崎	官次郎先生	一六五
故石卷	清隆君	一六七
卷尾に附す		一六九

終

卷頭に題す

青年の元氣旺盛なれば其國大に興り、老人の專横極りなくんば其國必ず久しからずして衰ふ、是れ世界の文明史が明に吾人に教ふる處なり、而かも吾國現下の世相を一瞥するに老人權を專にして漫りに青雲に驕り、青年志を屈して空しく徒食す、之れ斷じて興國の現象にあらざるなり、況んや舉世滔々利に走り、相率ひて白頭の下に集り、青年の行路を塞ぐ、嗚呼、想ひ一度茲に到る吾人は、悚然たらざるを得ず、然りと雖も、青年の元氣未だ悉く蕩然地を拂へるにあらず、烈々の氣、勃々の意志、潜みて山澤の裡にあり、伏して草莽の中にあるあれば、先覺の指導宜しきを得、且つ教へて倦まずむば、庶幾くは妖雲を一掃し、以て國運の進歩に資するを得む、本書は此の意味に於て、郡下の青年子弟が其意を探り、先人の行爲に鑑み、據りて以て自己の修養に資する處、あらしめむ事を期待せり

書名紳士録は却つて人物誌と稱する方恰當せりと云ふ人あり、或は然らむ
されど郷黨の代表人物は即ち郷黨の紳士なり、況んや紳士の意義、日本紳士
の意義、今日に於て頗る曠汎なり、予は此の意義を語るに就て漫りに學究を
學ぶにあらざるも、原語のセントルメンは果して如何なるを理想的の人と
爲すか、英人ニューマンの解釋は最も權威ある者として一般に認めらる、乃
ち其の大意に曰ふ

紳士の定義としては、決して人に苦痛を與へざる者とするに若くは無し
彼の慮かる所は何人も氣樂にするにあり、意見を駁し、感情を害するなど
苟も不安の念を惹き起すの行爲を避く、彼は赤面する者に優くし、了解せ
ざる者に親切にす、彼は誰に話しつゝあるかを忘れず、其不快を感ずるが
如き事に立ち入らず、談話に差出がまし事なく、又人を厭はしむること無
し、彼は恩惠を與へて知らざるが如くし、與ふる時に受くるかに見ゆ、彼は
餘儀なくせられざる限り、已れ自らに就て言はず、已れ自らを辯護せず、誹

謗に耳を假さず、何事をも最善意に解す、彼は斷じて不當の利益を收めず
彼は損害を記憶するに餘りに多忙にして、怨恨を事とするに餘りに懶惰
なり、彼は意見に於て必ずしも是ならざれど、不正なるには餘りに頭腦明
晰なり、彼は單純にして力あり、簡短にして結末あり、何處にも彼の如く冷
靜に思慮するなし、彼は敵の心に己を投じ、其過失を諒察す、彼は人生の弱
點を知ると共に、又其強點及び範圍を知る云々

之を一言にして盡せば、要之思ひやり多き孔子の所謂夫れ恕なる哉の人物
なり、斯くして眞個に理想的の紳士と言ふべし、唯紳士風を裝ふのみを以て
満足せず、必ず卿黨をして則る處あらしむ可きなり

本書に採録せる人物採擇の標準は全々編者の自由意志に決裁せり、需めむ
か尙他に多かるべし、採録せる中にも尙記述の足らざる者あるべし、されど
人各見る處を異にす、現に明治に於ける陽明學の大家故兆民先生は近代日
本人中の非凡なるもの三十一人を精選し、其中に猫八、紅勘、柳橋、竹本春太夫

圓朝、伯圓、九女八、星亨、雨宮敬次郎等を舉示せるも、現今何人と雖も見て以て一代の成功兒となす伊藤博文、山縣有朋、板垣退助、大隈重信の徒は與かる資格なしと斷せる處、崎人の言は云へ亦一面の味無しとせず、予は必ずしも此の崎人を學ぶ者にあらざるも、取捨の權は其意味に於て先生と等しくせし事を告白して憚らざるなり、唯松村介石、小林泰藏、兩氏を録せざるは既に數多の諸書に傳へ居らるればなり

本書を出版するに際し、高井中將、今橋少將、三輪郡長、橋本海關翁等の諸先輩が特に編者の爲めに題字、序文等を寄與せられ、以て卷頭を裝飾し得たるを光榮とし、且つ録して謝意を表す

大正二年初夏

錦城山下の寓居にて

岩崎 嘯虎

舊藩士
子爵 松平直德君

當家は藩士の知悉せる如く、徳川家康の曾孫松平但馬守直良公を祖とし、當初越前大野藩に赴せられ、五萬石を領せしが、元祿十四年二代直明公の時、當明石藩に移赴せられ、爾來直常、直純、直恭、直之、直周、直韶、齊宣、慶憲、直致等の諸公を経て、現子爵直德君に至るまで、實に十二代目なり、最も其間六代目峻徳院直之公は宗家より入つて嗣と爲り、同時に八萬石に加増され、尙特に十萬石の格式を以て待遇せられたり、歴代諸公の内、就中傑出せるは二代直明公にして、殊に士を愛すること深く、兵學者長澤澹齋を延ひて、國家老に列し、藩士に兵學を講せしめる結果、爾來多くの兵學者輩出し、其他歴代亦能く學者を優遇して、碩學を聘し、敬義館てふ藩校を興し、以て大に文教を奨勵せられたり

當主直徳君は、先々代慶憲公の次男にして、明治二年七月出生、幼名祥次郎様と申し上げし方なり、始め慶應義塾に學び、後學習院に轉し、同校全科を卒業す。明治十七年先代直致公の養子と爲り、同年四月直致公薨するに及びて、家督を繼ぎ名を直徳と改め、同時に襲爵仰付けられたり、其後三十六年貴族院議員の同爵補缺選舉に當選し、三十七年七月總選舉の時にも再選せられ、現に尙其職にあるは、世人の知る處なり、夙に同院に最も勢力ある研究會派に屬し、其穩健なる思想と高潔なる人格とは、同族間に於て、嘖々の令名ある所以なり、而かも貴族の故を以て、民情に迂ならず、却つて現世相の微細まで知る明遙に、常人の窺知し能はざる處なりと云ふ、天性優雅趣味として、圍碁と謠曲は、其最も愛好する處なり。

陸軍少將

今橋知勝君



金枝玉葉竹の園生のやんごとなき故小松大將宮殿下題してのたまはく「知己必勝」而かも筆痕淋漓書体確然一見殿下の御人物を拜察し奉るを得て、草莽の微臣思はず襟を正せり、而して此の得難き高貴の御書は實に我が今橋少將之を秘藏し、日夕掲げ拜して其誠を盡し居れるなり、此の一事最早少將の全般を説明し得て餘蘊なし。

君は愛媛縣の人夙に一身を國家に捧げ、明治九年熊本神風連一揆の當時既に少尉として同鎮臺に職を奉じ、其模様を知悉す、昨年偶々某會の席上に於て殆んど二時間に亘り其詳細を講演するや、列座の紳士時に色を失する者

ありたりと云ふ、又以て其當時の慘劇を窺知し得べし、而して其翌年は引續き西南の大役なり

斯の如くして君は早くも幾度か死生の間に入出して國家の干城たるべく實地の訓練を踏み來れり、二十七八年、三十七八年の兩戰役に從軍し前者は主として兵站司令部て、後方勤務に從事せし爲め勞多く功現はれず其驥足を展ぶるに由なかりしが、後大戰役の後半期に於て第一戰線に起つに及び始めて其本領を發揮し赫々の功を現はし殊勳に叙せらる凱旋後病氣にて豫備役に入り即ち今尙痾を養つて此の地に閑日月を送る所以なり、趣味として謠曲を好み國風の推敲に想を凝らすの外殆んど世事を顧みず只管其職分を守るに勉む、現に吾が明石在郷軍人中の青年將校特に一年志願の將校に對し最も意を注ぎ機會ある毎に軍隊精神の教養に思を致せり、故大將宮殿下が部下を戀はすの明亦如何に卓越遊ばされたるを拜察し奉るべきなり



第十六師團軍醫部長

中川 十全君

君は、明石出身軍人中の第一人なり、其職特科而かも衛生部に屬するを以て親しく銃劔を執り戰線の第一先登に起つこと能はずと雖も、二十七八年戰役を始め、三十三年の北清事件、三十七八年戰役、其他韓國駐在中火賊討伐等悉く實戰に参加せざるなし、殊に三十三年の北清事件には五月三十一日以來吾愛宕陸戰隊及び居留民義勇隊より聯合軍に附屬し北京籠城防戰中一般衛生事務並に毎回の戰闘に従事し、傍ら聯合軍に時々加入し來れる英俄米獨佛伊埃等各國の負傷兵を治療する等晝夜殆んど寢食を忘れて奉公中、遂に八月十四日右膝關節上部に貫通銃創を受け病院に入院するの止むを

得ざるに至れるが如き如何に君が其間奮闘せしかを窺知すべきなり、二十七八年戦役の際清國全權大使李氏兇漢小山六之助に狙撃せらるゝや君恰も馬關にあり急報に接し最先應急の手術を爲し李氏の生命を全からしめたる者亦君の功なり、三十七八年戦役には最初より最終まで終始戦線にあり殊勳を奏す、三十三年北清事件の功に依り功五級金鵄勳章を賜ひ更に三十七八年戦役の功にて功四級金鵄勳章及勳四等旭日小授章を下賜せられたり、四十一年韓國暴徒鎮壓の功に依り勳三等を授けられ、其他各國より贈勳せられたる者多し

君は、二十年陸軍々醫を志願し二十四年帝國醫科大學を卒業し二十五年軍醫科卒業三業軍醫拜命爾來累進して目下一等軍醫正第十六師團軍醫部長の榮職に昇れり其間三十四年帝國大學大學院に入り更に獨乙留學を命せられ三十六年歸朝せり、軍醫監たるや將に近きにあるを疑はざるなり



明石郡長

三輪信一郎君

昔者司馬子長の伯夷を傳するや、賈生の言を引きて曰く貧夫は財に殉し烈士は名に殉し、夸者は權に死し衆庶は生を馮む、同朋

相照し、同類相求む、雲は龍に従ひ、風は虎に従ふ、聖人作りて萬物觀ゆ、子長更に此の意を推擴して曰く、夷齊賢なりと雖も夫子を得て名益々彰はれ顔淵篤學なりと雖も驥尾に附して行益々顯はる、巖穴の士趨舍時あり、閭巷の人行ひを砥き名を立てむと欲する者は青雲の士に附するに非れば何んぞ能く後世に施さむやと、余は此の一節を誦し而して現任郡長三輪信一郎氏の境遇に想を及ぼし、今更の如く此言の眞理に驚く者なり

君は決して閩巷の人にあらず、否却つて名門の出たる上其素養に於て、其識見に於て現時時めく伴食大臣等が遠く及ばざる事は確に衆人の認むる處なり、而かも其身今尙一地方の牧民官たるに過ぎざるは何故ぞ之れ即ち余が冒頭に掲げし子長の言が虚ならずと爲す以所なり、君が若し生を桑名藩に受けずして長閑或は薩閩等に生れしならば今頃は少くも政局の要部に椅子を占むるの人たる事を信じて疑はざる者なり、嗚呼誰れか云ふ豪傑の士は文王なしと雖も亦起る何ぞ夫れ附攀を事とせむやと然り斯の如き固より大丈夫の志なり然も雲龍の際と風虎の會に見よ両々相待ち上は碧落到天矯し下は山谷を震動するに非ずや、余は此の意を以て益々其感を深くせり、唯君の志は之にあらずして彼にあり、彼とは何ぞや曰く今に安んじ職に殉するの赤誠之なり、君が此の赤誠を證明するには其施政の治績能く之を證す余は寧ろ君が此の志を壯とする者なり、息篤太郎君夙に醫師を専攻して明石に開業し令名頗る高し



二等軍醫正

高田忠良君

君は、縣下但馬生野の人なり、先考亦醫を業とし、當時漢法醫として其令名頗る高かりしと云ふ、君亦其志を繼ぎて醫を學び夙に陸軍々醫を志願し採用され各師團に勤務せり、二十七八年戦役に從軍して殊勳を顯はし功五級金鷄勳章を下賜され三十七八年戦役にも亦從軍し同じく殊勳を以て功四級を賜ふ、後方勤務に居る職務の人尙能く再度の殊勳を揚ぐ君が軍人として非凡にあらざるを知る可きなり、殊に後戦役の際は濱寺に於ける捕虜收容所の院務に最後まで預り處理せるは世人の知る處にして、戦役終局の後再び後備と爲り閑地に入り明石に卜居して永久此の郷の人と爲る覺悟なり

君は所謂功成り名遂げたる人、今閑日月を友とし優遊自適したりとて何等怪しむに足らずと雖も、而かも君自身は全く其氣にならずして時に郷黨の爲め先達の地に起ち指導を與へられる點は吾人の特に敬意を表する所以なり、君は即ち現に大明石西廓戸主會長として部落の公共事業に關し親切に世話し居れり、吾輩が明石に來りて最も遺憾に感せしは外來の寄留者に對し郷黨の人同化するの量なく却つて虐待し、より以上收斂するの感あるは行人の定評なり、故に寄留人は心から少しも明石を德とせず、明石人又他人視す其間日一日意志の阻隔を生ずるは必然の結果なり、斯るは決して明石の將來を大にする時運の趨勢に乗せる適法にあらざるは智者を俟たざるべし、此の點に於て君は能く自から其範を示せる者と云ふべく、自餘學ぶ可きなり。



三等軍醫正

高橋 静海君

君は福井藩士なり、醫學卒業後職を陸軍に奉じ第四、第六、第八等の諸師團に勤務、明治二十七八、三十七八の兩戰役共從軍して殊勳あり、非戰鬥員にして尙且つ金鵝勳章を授與さる、其人物溫厚圓滿特に病患者に對する診療施術の如き丁寧親切なること其の比を見ざる程なり、人と對談するに際しても對者に時の移るをも感せしめざる如きは以て其如何に對話の妙を得たるかを知る可きなり。

君は斯の如く其外觀の現れたる方面に於て殆んど其完全なる人たるのみならず、其精神的內容に於ては更に敬仰すべき人格の人なり、勿論心内にあ

れば色外に現はる、君の人格は外面に現はれたる前記の行動に依りて既に十分之を認むる事を得るも其精神的方面を想望するに至りより以上一層其偉大なるを感得せり、故立見將軍は陸軍の慈母として全國青年將校の欽慕せし大人物なりき、如何なる邊境僻陬の土地と雖も將軍の部下なりと聞けば命を受けたる青年將校等しく勇躍して赴任せる程なりと云ふ而して君は常に最も將軍の人格を私淑し、又第八師團在役當時は親しく日夕其人に親炙し其徳に親しみたる人なり、天性温厚圓滿の人物は更に此の後天的經歷に依りて一層君を人格の人たらしむるに至り現に慈母の性は惻隱の心と爲りて現はれ明石軍人戦死者の精靈を慰めむとするに至れり、彼の戦死者忠魂碑建立の主唱者にして且つ熱心家たること、實に君は其第一人なり、今や多年の翼望漸く將に成らむとするに際し俗悪人の私的商畧に陥る事なく完成を希望す



理學博士

松村松年君

君は、小林君と共に明石の誇りとすべき人物なり、而かも其人物の意義普通多くの場合に用ひる意味にあらずして日本的或は世界的とも稱すべき大なる意義を含有する者なり、即ち君は新智識の點に於て小林君の工學博士たるに對し理學博士なり、而かも其博士たるや兩君共真正なる自己の實力より得たる者にして彼の學問或は閩閩の爲め情實的に得たる者とは根本に於て異なること世人の確認する處なり

君が幼少の折は頗る腕白にして小學校在學中の如き二三級上級生すら君の爲めにヤリ込まれる事多かりしと言ふに見るも其一般を推知し得べき

なり、十四才の時大阪に出で更に轉じて上京し明治學院に學び後札幌農學校に入り卒業後政府の命に依り獨逸に留學し昆蟲學を專攻し歸朝し遂に理學博士の榮冠を戴き次で東北農科大學教授に任せられ現に其榮職にあり、昨冬二豎に冒かされ歸明して久しく痾を養ふ、編者一日其寓を訪ひ後進青年に對する意見を問ふ、君快然として答へて曰く

其事なり、明石に人材の出來ざる所以は過日の郡教育會總集會席上に於て説述せし如く主として天然の風光に馴れ祖先傳來の家業に甘んじ小成に安んずるの結果なり予は幼少より出て、他郷にありしを以て從來餘り故郷と直接知る處少かりしも今回歸郷して陰に其模様を窺ひ知るに及び甚だ慨嘆に堪へざる者あるを感せり、彼等の殆んど總ては公共事業の何たるを解せず、國家の觀念を有せず、唯我利一逼自己の私腹を満たすに吸々たる如き斷然矯正せざる可からず云々

實に至言なり、經世家教育家須らく君の言に聞き猛省する處あれ



女子師範學校長

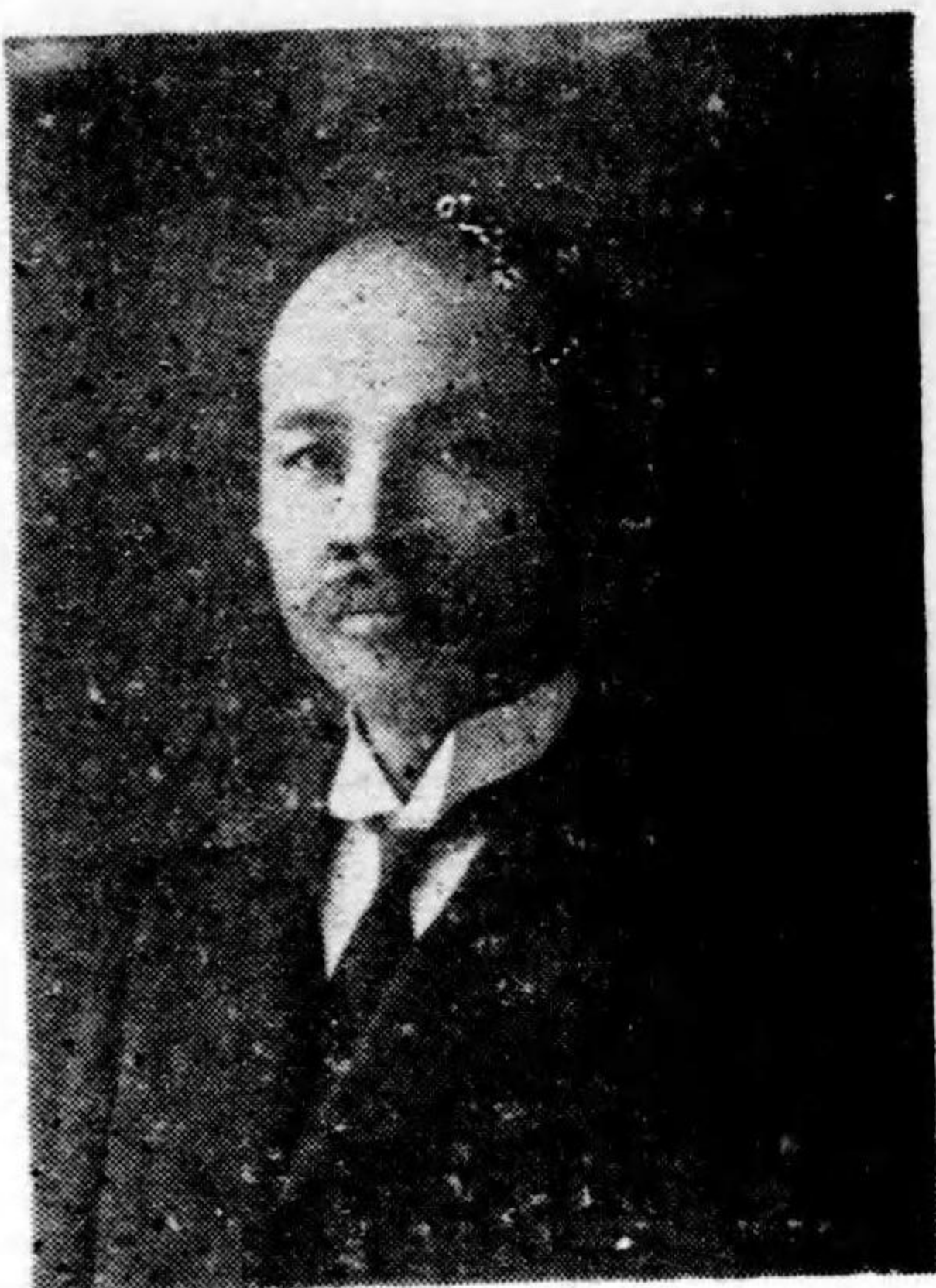
井田 竹治君

現時の教育界に於て一大通弊と認む可き者は彼の形式的教育主義なり、此の形式的主義は上大學より下小學校に至るまで所

謂官僚的色彩を加味したる閥族本位の官學式より來れる根底深き大弊害にして苟も真正なる意味の國民教育を行はんと欲せば此の根底深き弊害ある官學式形式主義を根本より打破せざるべからず、君は官學の畑に育ち此の形式主義に教へられたる人に拘はらず、却つて其弊害あることを自認し、極力形式主義を排し誠意ある實踐主義の實行家たる點に於て殆んど理想的教育家なり

君は京都の人、東京高等師範の本科に學び二十八年卒業して京都府に奉職し三十四年再び選抜に依り同校官費研究科に入り翌年業を終へ直に長野縣市立松本高等女學校に教鞭を採り居ること八ケ年四十二年四月現職に榮轉せり、長野縣の八ケ年間在職中に於ける功績は令名噴々として傳へられ轉任に際し縣民痛く惜別の誠を表せざる者なかりしと云ふ、當時長野縣は全國中普通教育の最も善良に發達したる模範縣として一世の推稱を受け居りしに見るも君の一面を想像し得べきなり

吾が明石師範に赴任後は益々君特有の實踐的人格主義の教育を施し従前の極端なる形式主義を不知の間に改善し、各自擔任教師をして十分に自己の特長を發揮せしむる結果校風圓滿和氣藹々たること實に全國無比なり生徒に對しても歴くまで日本美の婦徳を涵養し奉ずる人山鹿素行先生、四十七義士乃木大將等悉く萬代の師表なり、亦以て君の人格も窺知すべし、趣味として最も謠曲を好み



縣立農學校長

吉田 彦松君

縣立明石農學校は、吾が錦城地帯に於て尠くも誇りとするべき者の隨一なり、而して此の誇りとするべき名譽ある學校の代表たる

と同時に又其誇りとするべき要素の總てが殆んど君の教育家としての功績と其人格とに基因せるを知るに至りては君の人と成り亦大なる哉、國民の基礎教育たる普通教育家には井田師範校長ありて其範を全國に誇り、更に専門教育家として君を得亦其範を全國に誇るは確に明石の幸福なり

君は廣島の人、文久二年十月に生る、夙に農科大學に學び卒業後明治三十年四月一日現校の前身たる縣立簡易農學校設立せらるゝに際し聘せられて

校長となり三十五年四月縣立農學校と改稱するに至り引續き其校長となり傍ら縣立農事試験場の技師を兼ね、四十年九月正七位に叙せられ、四十四年十二月文部省より多年實業教育に従事し勤勞尠からざる功績に依り選奨され賞金貳百五十圓を受く、就職以來今日まで其間實に十有七年一日の如し、斯くの如く利欲の外に超然として清廉躬行一意専心生徒を教養したる結果校を出てたる校友會員一同は昨年十一月全國園藝大會明石に開設されたる機會をトし校庭に於て校長在職十五週年恩謝式を舉行し贈るに謝恩狀及び貴重なる紀念品を以てせり、其盛儀にして且つ斯界の稀有なる美事たる事は當時の諸新聞紙噴々之を賞讃し列席の諸名士亦口を極めて君の徳を頌せり、君折りに觸れ必ず其所感を國風に現はす左記も其一なり

みるからに勇ましきかな教子が汗ながしつゝ野べのはたらき
むつまじき訓の庭にふく風はいつものとけき春こゝちする



公 証 人

奥 田 力 君

君は、鳥取の藩士にして司直の出身なり、目下自から劇職を辭して公証役場を開き、餘世を此の明石に送る可く優々自適せり、君曾て職を司直に奉ずるや明治二十三年以來三度明石區裁判所の判事に任せられ、其間偶々轉ずるも縣下近郡にあり職務を以て縣下各地を巡視する外、常に機會ある毎に民情の觀察に怠らざりし結果にや、其縣下民情を知り而も中正を得て誤らざる事確に君の如き稀なるべし、身民人と直接の關係を有し其觀察批判の正否に據り至大なる影響を及ぼす可き行政官にありながら却つて正當の觀察を得ず延ひて民人の反抗苦情を惹起せしむる如き者宜しく君を學び範

とすべきなり

君頭腦頗る明晰にして且つ精密—事の細大を論せず、必ず其日毎の行を微細日記に登録して一日も廢せず斯くて卷を成すこと幾十冊、獨り君の家に於ける歴史たるに止らず明治年間に於ける官界の消息、民情推移の變遷思想、風俗史とも見るを得べく實に後世史家の絶好資料として賞讃すべきを疑はざる者なり

君は、又居帶後進者の誘掖に心を注ぎ裁判所に在職當時より君の指導に據り今日既に相應に出身せし青年數名あり、殊に今回の政變にては山本内閣の文相に拔適せられたる奥田義人君は實に君の愛弟なり、義人君や世人の知る如く學問あり、吏務に長じ其閱歷に於て後藤大浦に下らず從來屢々大臣の候補者として數へられたることあり、今日の入閣異數とせず寧ろ從來の文相に比し内閣の人物として歓迎さる、又一門の榮と云ふべし



明石町長

鷺塚貞操君

君は微頭徹尾至誠の人なり、君が前半性の經歷は今更我輩の叙説を要する迄も無く衆人の知悉する處なり、即ち維新の風雲に際しては十六才の幼年を以て藩侯に出使し京都御所警衛の任に當り、後岡山藩に新式兵術の修業を受け、兵術の教官と爲り、大政維新後明治政府に出仕を命せられたるも間もなく病の爲め辭して歸り暫く靜養して後實業界に身を投せり、爾後岸本豊太郎氏と肝膽相照し以て岸本氏の事業を補佐し、今日あらしむるに至れるなり、往年町長改選の事あるや町民多數の懇望に依り遂に大多數を以て當選し今即ち其職にあり

君が外部に表はれし行動の一部を抽象し目するに八方美人式の人物と稱するは誤れり、此事曾て君を目するに伍し易き人と爲し窃に相擁して私利を計らむとせしも嚴正なる一言の叱咤に却つて惡聲を放つ者なりと云ふ以て君が其職務を奉ずるに際し公私如何に嚴正なるかを証す可きなり、且つ編者が特に君の爲め敬仰の念に堪へざる點は、其祖先崇拜の念厚きと師恩を大切に想ふの志厚き事なり、君が祖先の墳墓に對する二十年來の經驗的意見は本年一月元日發行の明石新聞紙に之を紹介し置けり、編者は又君の先師宮崎官太郎先生の墳墓が其縁者富豪某現存し居るに拘はらず捨てゝ顧られず常に荒廢せるを嘆じ、君唯獨り四時往ひて其墓に展ずる由を聞けり、人格の人にあらずして誰れか斯くあるを得むや、宜なり舊藩主松平子爵の如き最も君を信賴し家政の大綱或は舊藩士間の連絡等擧げて君に聞く處多しと云ふ、尙下水工の完全が君に負ふ處多きは勿論なり



在郷軍人會長歩兵大尉

伏屋哲藏君

君は、達人なり、人或は君を稱して不得要領の人と爲す、或は然らむ、而かも現下の世相は此の不得要領式の人にあらざれば即ち要領を得ざる世の中なり、彼の現代唯一の高士木堂犬養氏が言々一句切々要領を得る晃々たる主義は却つて三十年轆轤不遇世俗の多衆と相容れず常に逆境に居り唯輿論に高節の士として精神的に一世の喝仰を受くるのみなるに不得要領居士として有名なる松田正久氏は却つて三度國務大臣の榮職に就けり、斯の如きは所謂人爵と物質的に於て時人が稱して以て成功と爲し無上の光榮とする處なり、されど明石人が君を稱して不得要領の人と爲すは、必ずしも松

田式の不得要領にあらず却つて木堂式の精神を加味したる不得要領なるを意味せり

君が最も渾身の力を注ぎ且つ其精神を傾注する處は農學校の生徒に對する軍隊的精神の注入と人格訓練の點なり同校徒の風紀嚴肅殆んど一糸亂れざるの美風は君の訓育の効預つて力ありと云も不可なし試みに同校生徒の觀察せる君の一面を一瞥せむ最近發行せる同校々友會誌錦江に曰く

伏屋先生體操科専門の先生にて教壇に立たれる事は滅多にないが折々雨天などの時に講話をして下さる先生の態度音聲共に偉大なもので恰も古豪傑のをもかげがある(原文のまゝ)

言や簡なりと雖も彼等の卒直赤裸々なる觀察能く君の全豹を寫し得て遺憾なし在郷軍人會長としても統御緩嚴宜しきを得て衆望常に歸す大久保彦左衛門の尊稱遇然にあらざる也趣味としては獵を好み又小鳥を愛す現に愛養し居る鶯明石の月は明石第一等の稱あり



海軍大尉

市村久雄君

明石は、現在及び將來に於て海を主とすべきか、陸を主とすべきか、語を替へて言はゞ明石將來の發展策は陸上よりするを得策と爲すか、或は海上方面よりするを上策と爲すか、今茲に俄に斷言すること能はずと雖も而かも既往に於ける明石も將來に於ける明石も其發展の方法を講ずるに際し海上方面を没却し能はざるは衆人異論なかるべし、此の點より明石は海事志想の教育を忽諸に附すべからざるなり

君は、此の見地よりするも明石に於ける海事志想先覺者の一人なり、即ち明石の出身者たる海軍々人として君は鈴木君と共に最古參者たるなり、然り

他に同種の人なきを以て最古參者と稱するも其實未だ大尉なり海軍々人として其本領を發揮すべきは將に之れからなり君の抱負も亦然るべしと見る可きは君より編者に送られたる手教の一節は能く且つ確に之を證明せり試みに之を録せむか一

前畧俚謠にも四十五十は鼻垂れ小僧男子盛りは眞八十と謂へるあり聊か以て活社會に於ける人生の一半を穿てる者と自信致し候野生の如きは未だ此の鼻垂れ小僧にも達せざる所謂黃嘴兒是れと申す經歷修養の有之べき筈なく隨つて郷郡人物誌上の人と爲るは猶遠き未來と存じ候其未來とても又疑問に御座候云々後畧

以て君が抱負の凡ならざるを想見す可きなり君當地の小學を終へ姫路中學に學び後東京に轉じ兵學校に學びて卒業後累進して大尉に昇り現に驅逐艦春風艦長たり君の將來や蓋し矚目す可きなり



海軍大尉

鈴木義一君

君も市村君と等しく明石青年界に於ける海事思想先覺者の一人なり中學を終へ海軍兵學校に學び卒業後間もなく三十七八年の戦役に從軍し殊勳を建て其後累進して大尉に昇り現に一等巡洋艦生駒分隊長たり此の間横須賀海軍砲術學校教官を拜命し兼て同機關學校の教官と爲り専ら青年子弟を教養せり

君は斯の如く親しく後進子弟教養の任に當りし經驗あるだけ郷關の青年子弟に對しても始終意を用ふる者の如く編者の手書に對し早速左の如き意見を寄せられたり

拜啓吾郷里の青年子弟を誘導啓發せん爲め吾明石郡出身の人物誌を編せらるゝ御計畫誠に結構に存じ候由來風光明眉氣候順適自然の恩恵に浴せる爲めか兎角姑息小成に安んじ小天地に跼蹐として區々の小策を弄し感情に捉へられ屑々の偏議を事とし言説徒に多きも弊達の眼識を缺ぎ何となく沈滞の氣味ある吾郷里の子弟をして生氣あらしめんこの御計畫重て大賛成に御座候予は御計畫の御成功を奉祈候但し小生の如きは今尙無經驗無定見の一若輩貴兄御希望の如き材料を提供し得む事は思ひも依らぬ事に御座候云々後略

君の處説が別掲松村博士の處説の一節と暗合する處あるは奇とすべし此は松村博士も目下教育家として子弟を教養しつゝあり君は専門の教育家にあらざるも後進子弟を教養せし處は等しく教育家と云ふを得べし即ち其處説の暗合を見る以所なるべし



陸軍二等主計

平野英吉君

昔者言志録の著者は其特創の見を叙し一節に曰く

獨得の見は私に似たり人其の驟かに至るに驚く平凡の議は公に似たり世其狃聞に安んず凡そ人言を聽く宜しく虚壞にして而して之を邀ふべし苟も狃聞に安んずるなくして可なり

と著者は更に他の一節に叙して曰く

今日の貧賤に素行を能くせざれば乃ち他日の富貴に必ず驕泰せん今日の富貴素行を能くせざれば乃ち他日の患難に必ず狼狽せん

と嗚呼至言なる哉而して言志録の著者とは誰ぞや彼の百代の英傑南洲西

郷翁が終生欽仰措かざりし一誠佐藤先生は實に其の人なり、筆者は今茲に此百世の金言を冒頭に引きて君の平素に想ひ及ぼしたる時偶然か、暗合か君の言行が此の言中の一節に彷彿たらしむる處あるを感知せり。君は新智識の習得に於て又各方面の經驗に於て且つ又其資産に於て目下の明石に於ては殆んど何人にも遜色なきは衆人の等しく認むる處なり、而して資産家の後繼人に有り勝ちなる庸劣或は不遜の人にあらずして却つて其徳望全町を掩ふ以所の者は何ぞや、曰く唯君の人物温良恭謙沈黙して徹頭徹尾其の分を守る處確實なればなり、君にして功名利達を欲し仮りに野心家たらむとせば何時にても欲する儘なり、而かも之を取て爲さざるのみならず、却つて自から避けて毀譽の外に起つ、之れ即ち守る處無くんばあらざる以所なり、君今主として家嚴の業務を補け傍らに在郷軍人會の副會長に擧げられ伏屋會長を補佐す、眞に青年紳士第一の人なり。



橋本海關君

君は關西の碩儒なり、幼少の折より母堂に蒙求の標題又は論語の句などを兒守歌の如くに譯して讀み聞かされし事遂習ひ性となり、大に學問を好むに至れり、母堂は當時有名なりし藩儒山内庄太郎氏の長女なり、曾て君が壯年の折神戸に於て同地中學校教訓水野立夫君支那人某之作なる蚯死紫し長[○]の一句を出して其對句を求め且つ當時支那人或は邦人にて之に對句し得る者無きを附言せり、然るに君は其を手に取り一見し終るや直に筆を執つて蝸生黃曲小[○]と付て差出せり、水野教諭一讀三嘆妙と叶び直に支那領事館の領事梁震東氏を訪問して之を示せるに領事も賞讃措かざりしと云ふ

夫れより詩名益々現はるゝに至れり、前詩^①は之の草書にして之に對する曲^②は曲の篆書なり其後神戸又新日報廣く投票を以て兵庫縣十傑を選むや君は其中詩家として當選の榮譽を得後年更に二十傑を選定するに際しても詩文書家として當選し又儒家としても多大の投票を得て其名を列せられたり、以て君が關西地方に於ける斯學の大家として如何に多くの人に尊重せられ居るかの一一般を窺知し得べし

曾て抹殺博士を以て有名なりし彼の重野安釋博士が其一流の筆にて武藏坊辨慶を抹殺し去らむとするや、君直に筆を執りて之を論難說破し流石の博士を一言も無からしむるまで叫ませ當時の諸新聞一齋に君を史學家として推稱せり、君今野鶴を友とし多く語らず、令息君青年畫家として多くの未來を有し其名漸く東都の大家に顯はる



海神社宮司

上月爲蔭君

君は紳士の典型なり、先考豊蔭翁亦精神家として國學の大家として有名なりき、翁は天保十一年姫路に生れ同藩先憂の志士秋元安民翁の薰陶を受け後更に東宮侍講本居博士の門に國學を修め維新の際には同志と共に尊王の大義を唱へて國家の爲めに盡す處多かりしが、維新の新政成りて明治六年始めて海神社の宮司に任せられたり、同社は世人の知悉せる如く其御事歴最も正しく、神功皇后御親祭あらせられ、延喜式には官幣大社に列せられ給ひし事さへあるに、中世以降戰亂相繼ぎ爲めに社殿は屢々兵燹に罹り社領は掠奪の不幸に陥る如き様なりしを、豊臣氏海内を一統するに至り祈

禱料を奉り山林を寄附し明石藩主亦累代參拜して奉仕し明治新政府神社制度を改むるに際し明治四年國幣中社に列せしるに至れりと雖當時尙社殿矮少境域狹隘にして定例の祭儀も正式に行ふこと能はざりしを翁の就職後専心奉仕して遂に今日の規模を成し三十年三月十五日更に官幣中社に列せられたり翁が斯く殆んど三十年の間献身奉仕する傍ら多くの子弟を教養したる結果は附近村民皆其徳に服し更に君が官途にあるを迎へて奉仕せしむるに至れり

君は斯の如く父徳の餘慶に加ふるに君自身の力と人格を以てす材民今尙君を目するに先考の如くして欽慕措かざる者誠に所以ありと云ふべきなり君亦國風を善くし特に人心日一日浮薄に流れ神洲特有の美點なる敬神の風又日々に減退するを憂ひ身を以て範を示し村民の徳化に力を盡すと眞に至れり盡せり君を有する垂水村は精神界の幸福なり



陸軍大尉 堀尾好太郎君

米檢明石出張所長

君は明石出身陸軍々人中の先輩株なり夙に陸軍教導團に學び卒業後第三師團に奉職し二十七八三十七八年の兩戦役に従軍して殊勳を顯はし累進して大尉に昇り戦役終局後々備に入り間もなく本縣に米檢査所の新設せらるゝに至り本郡出張所長に拔適され爾來勤績して今日に及びり君が軍陸生活中の經歷は既に世人の知悉する處なれば今多く茲に述説するを要せざるも其後半世即ち現務に就任せし以後の功勞に對しては明石郡の爲め確に特筆大書すべき者たるを信じて疑はざる者なり言ふまでもなく明石の聲價を維持するには中崎遊園地もあるべし人丸神社もあるべ

し古來傳へられたる風光の明眉もあるべし、されど之等は不生産的の聲價なり勿論之等の聲價に依りて行人を挽き間接に利し得る處あるは事實なりと雖も一定の生産物より來れる聲價に比較する時は其聲名寧ろ少なるも實質は逸により大なる者あるを否定すべからず即ち明石産米は確に其第一なり、本郡の經濟界が産出米に依りて如何に調節せられつゝあるかは獨り當業者のみらず一般世人の認むる處なり而して君は實に此の産米の聲價を維持すべく日夜其心身を勞し居れり、單に米檢出張所長と言はゞ一部當業者の外或は知らざる者多かるべし而かも此の隠れたる役人は明石經濟界の大恩人たる君なりと云ふを忘るべからず君は、斯の如くして生産米の品質改良を計る外殆んど何等の趣味的娛樂なく唯晚餐の一角に一本の好物あるのみなり



明石町助役

杉山健吉君

君は明石に於ける實際的事務家の標本なり、君は自から告白する如く敢て深遠なる學識素養あらざるも能く二十年來終始一貫町村自治制の實際的其衝に當り刻苦勤勉今日に至れる者誰れか其至誠と勇氣を稱せざる者あらむや、唯に之れのみならず君は其主義とする處信の實行に忠實なる點に於て明石に稀なる勇士なり

明石町の下水溝工事は町村制實施以來の大問題にして之に對し群議雜然紛起せるは固より其處なり、而かも君は此の間に處して斷行主義を持し固く採つて動かす、鷺塚町長を補佐し幾多反對論者の矢表に立ち遂に大勢決

行に傾き今日の結果を見るに至れるは、時勢の進運に據る處多しと雖も、一面確に君が處信の健實をも認めざるべからざるなり

君は、自己の職分に關する處信の實行に忠實なるが如く、又平素常に精神修養に想を致す者の如し、左記は君が其信條に關する告白なり

我國民の精神は教育勅語を本とし、修養上一日も忽諸に附すべからざるは、今更申迄もなし、此の趣旨を服膺し、益々吾人の修養を積まんには、恐れ多くも左記の御製を始め五個條こそ精神修養として最も適切なるを信じ、日々喜怒哀樂の發せんとする毎に反覆し居ります

一、罪あれば我を罪せよ、天つ神民はわが身の生し子なれば (恐懼)

一、心だに誠の道にかなひなば祈らすとて、も神や守らむ (至誠)

一、不平不満は我力の不足より起る者、こ自覺し、益其業に奮勵すべし (努力)

一、うき事の猶此上につもれがし、限りある身の力ためさむ (忍耐)

一、如何なる場合に遭遇するも、君國の爲めに身を處することを忘るべからず (決心)



明石警察署長

播磨靖行君

君は、岡山縣の出身にして、慶應三年二月出生す、始め岡山に於て漢學を修業し、明治十九年小學校教員となり、同二十一年一月二十五日兵庫縣巡查を志願し、同日採用拜命、二十八年十月遂に兵庫縣警部に昇進任命せられ、同警察部保安課及び相生橋署等に勤務し、更に三十五年出石警察署長に抜擢任用さる、其後社警察、瀧野警察の兩署長を経て、明治四十四年七月吾が明石警察署長として赴任され、以て最近に及べり、以上は唯君が全生涯に於ける一面の大要に過ぎざれども、二十一年以來今日に至るまで、其間實に二十有六年終始一貫殆んど其身を斯道に委し、一意専心警察行政の任に當り、献身的奉

公の誠を致す處確に君の人格を知るに足るべし故を以て君が其職務を行ふや緩嚴宜しきを得公私の判別を守ること怡も名判官の斷獄に於けるが如し

君が公徳私徳の區別に對する意見の如き實に世の非似新聞記者をして殆んど慚死せしむるの感なくむばあらざるなり彼の主義なく節操なく唯權勢利録に迷ひ己の私腹を満たさむが爲めには個人の私事を摘發し以て市井の無賴に誇り又私利を計る爲めには前日の主張も弊履の如く捨て翌日は更に白を黒と強辨し牽強附會の筆を弄する者等宜しく君の示教を仰ぐ可きなり

君は明石警察署に赴任後と雖も此の千秋一貫の主義毫も變ずる處なく益々嚴正なるを以て一部不正の鼠輩は君を目して或は蠻勇を好むと稱し或は融通の利かざる律義一片の人なるかの如く稱する者あるも之等は皆自己の不正を棚にする輩の言にして君の眞價には些の影響なし

明石區裁判所長

加藤 清登君



君は廣島縣三原藩士なり明治二十年裁判官登庸試験に拔適され爾來二十有七年司直庭上にありて斷獄の任に當り今日に至

れり前任地和歌山縣田邊區裁判所より明石に榮轉せるは明治四十四年也君は其の性至誠謹直殆んど理想的判官なり特に多年の經驗は其裁斷流るゝが如く毫も遲滯する處なし従つて庭下に起ちし原被両造は一度其の判決を聽くに及び勝者も敗者も聊か異存なき觀あるは決して獨り法の權威のみにあらざるなり趣味として謠曲を好み昨今亦丹精に想を凝らせる結果頗る上達し見る可き作多しと云ふ



明石郵便局長

佐久間剛藏君

君は岡山縣の出身にして夙に官立師範學校を卒業し育英の任に當り居りしが其後志を官海に轉じ遞信省の官吏と爲り各地に奉職し三十七八年戰役當時に野戰郵便局長として從軍し戰後明石郵便局長となり今日に至れり君は其人と成り極めて温厚圓滿玲瓏玉の如くなるを以て何人と相接するにも其間些の城壁なし故を以て君と對談すれば四邊自から平和の氣満ち來り快然殆んど時の移るを知らざる程なり而かも談論風發必ず相當の見ありて一面の博識を窺はしむ兼て詩歌を能くし感興湧き來れば必ず國風或は詩と爲りて現さる眞個多能の士なり



醫士

小野寺秀太郎君

君は義士小野寺十内秀和の後裔なり義士四十七人元祿快擧の事ありて早や既に三百年其今日に至るまで連綿として世々醫を業とし君に至り家門益々榮へ名愈現はるゝに至れるは名門の後ありと云ふ可きなり
明治七年笈を負ふて上京し當時本郷本町なる壬申義塾に學ぶ青山博士の如きも同窓の一人なりと云ふ後淺草警視醫學校に轉じ給費生として月額十圓を受け更に同校を大學豫科に移すと共に十三年下谷泉橋なる大學東校時代の別科に轉校し十七年卒業せり天谷高木柳等の諸博士は皆同期の學友たり十九年居を明石に定め開業し以て今日に至れり三十五年郡醫師

會を組織し選ばれて其會長と爲り就任以來代る事なし、又小學校令に依り學校醫の制定せらるゝや、最初の町内各小學校醫と爲り縣立農學校醫も開校以來其職にあり、其他兵庫縣醫師會評議員或は理事たるありて、如何に君が斯界に名望の高きかを知る可きなり

君は、斯の如く其職分に對する技術の熟達せるのみならず、且つ獨り同醫師會の名望家たるに止らず、其人物極めて圓滿温厚なるを以て一般總ての社交界に於ても善良なる模範的の紳士として、令名噴々たるは世人の知悉する處なり、其性亦慈心頗る深く患者にして貧なる者には常に慈惠的に施療或は施藥を爲せしこと數ふ可からざる程なり

君は又公共事業にも常に心を傾け、現に明石町にも學校教育基本金として金百圓を寄附し、郷里の小學校にも同様百圓を寄贈せり、其他各種の公共事業に盡されたる事頗る多しと云ふ



小野寺病院長醫學士

小野寺強彌君

昔者年を取りて善き者は、お醫者様と南瓜ばかりだと言つた時代もあつた。そうだが、二十世紀時代而かも大正の今日に於ては、斯る諺も追々自然に淘汰されねばならぬ。見よ現下の時代は、徹頭徹尾學問の時代である。科學の時代である。新人物を要する時代である。此の趨勢は總ての社會を通じて要求されて居る時代思潮の大勢であつて、政治界を始め、實業界其他總ての社會に湧然として起り來れる現象であるが、特に醫術界には最も此の種の傾向が顯著である。

君は、此の意味に於て現今に於ける明石醫界のオーソリチーと稱するも決

して過褒であるまい、即ち君は明石醫界に於て人物經歷共に其第一人として萬人の認めて以て異論のない小野寺秀太郎先生は實に其父君である、而して君は、姫路中學卒業後熊本第五高等の大學豫科に學び、更に東京帝國醫科大學に入り最高の學府に斯術の蘊奥を極め四十二年目出度卒業して醫學士の稱號を戴き、更に大學院の研究科に入り專攻の傍ら永樂病院に入つて實地施術の研究に従事し、昨四十五年六月歸郷して目下の通り自から院長の職務に當り專心父君の家業を助けて居る。

君に最も尊ぶべき處は、其温厚慈母の如き圓滿なる性格と如何なる人に對しても總て一切平等に應對する點である、將來身を立て名を成さむと欲する者にして此の心掛け無くば如何なる社會の人物でも到底其人は大を爲す事は出来ないが醫術界では特に然りとせば君の前途や實に洋々たりである、尙君平素の趣味として寫眞の外何も無いさうだ。



醫

師

蘆田順藏君

君は、丹波氷上郡佐治村の出身なり、君の祖家は代々大庄屋の家柄なるを以て郷黨に重せられしも、君が九歳の時嚴父の早世あり、爲めに維新後一時一家淪落の不幸に陥りたり、君は出て但馬の某家へ養子と爲りしも、養家先に偶々男子二人出生あり、當時村夫子に就て日本外史の教教を受け居りし際、さて讀んで應仁の亂に至り其原因を知るに及び、翻然養家を辭して復家せり、而かも君は當時より陸軍士官たらむと欲し一心志して學ぶ處あり、養家にある中にも郡役所の給使と爲り其得る處を貯蓄して以て學資を得んと勉めたりと云ふに見るも如何に君が志が尋常ならざりしかを知る可きな

り而かも君當時の體質と學資供給の二點は遂に軍人たる事を得せしめず十二年恰も官費募集中の神戸醫專に入學成績優良の爲め十四年更に縣より選拔され東京大學醫學部別科に入り十九年卒業せり卒業後大學病院及佐々木病院等に助手を勤務して實地を研鑽し二十三年明石に來り獨立開業して爾來今日に至れり

明石に開業後は當初縣より選拔せられたる關係上本縣内の衛生事業に従事する義務あるを以て本縣よりの囑托として各種の衛生事務に映掌す小學校醫設置規則發布以來明石郡醫として囑托の命を受け又三十六年以來縣立女子師範學校醫の囑托をも受け現在其任にあり其他郡醫師會の幹事及び副會長として組織以來今日に至れり君の祖家は一時倫落の不幸にありしも其後再興して大に現はれ現に家兄岡澤氏は東播銀行の頭取を勤め實弟大島義脩君は第八高等學校校長なり



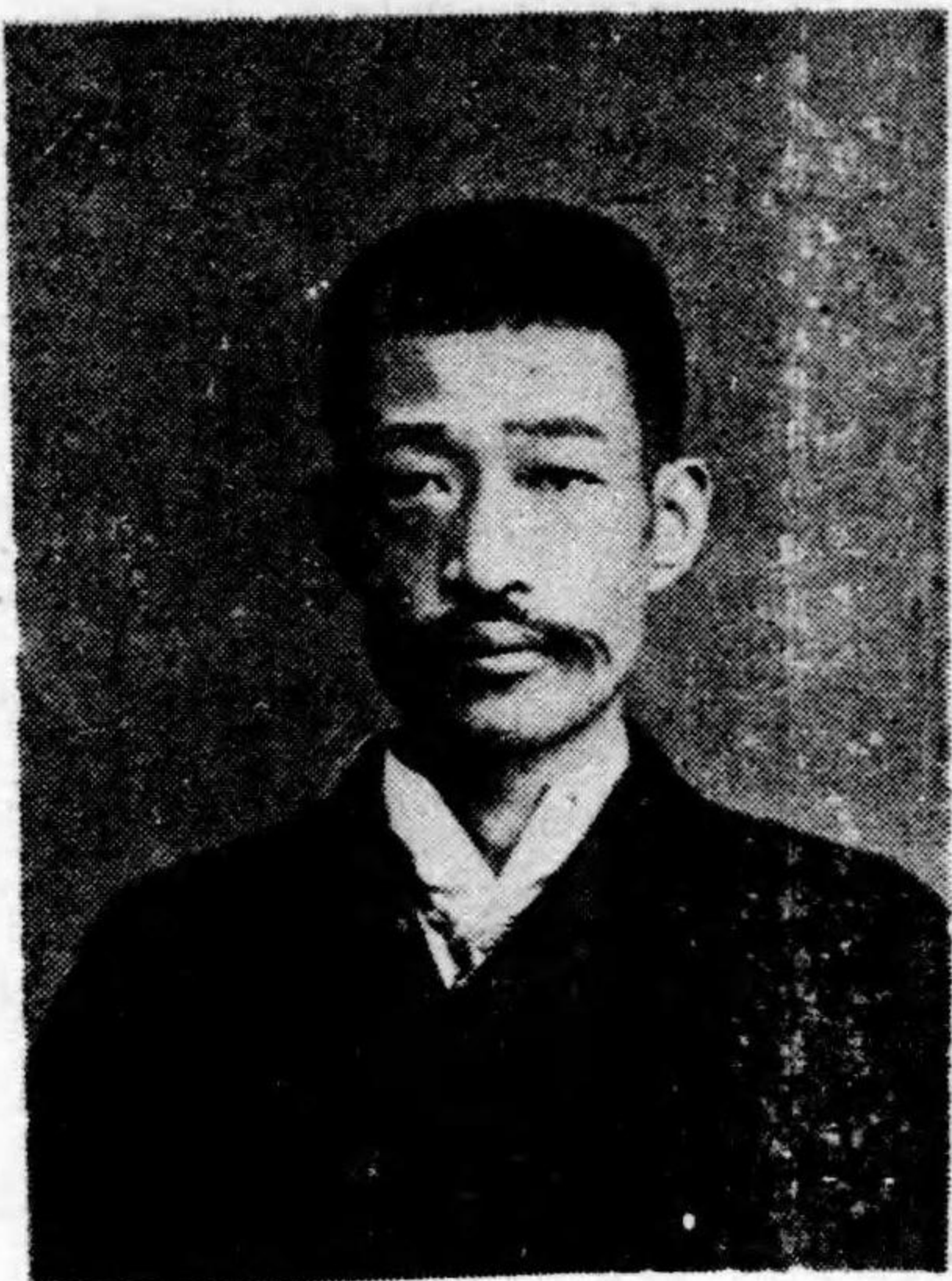
醫師

藤本 彌君

君は縣下三木の人なり、夙に神戸醫學專門學校に學び業を終へて後暫く赤穂に開業し更に神戸甚中病院の副院長に聘せられ久しく勤務令名高かりしが三十六年辭して明石の人となり獨立開業せり天性温厚謙讓見るから慈母の如き態は特に小兒の患者に適し如何なるお醫者キライの小兒も一旦君の手に接する時は何れも嬉々として喜び施術を受くるに至る而かも其人格清節百世の義人木堂先生の人物を敬仰す先生曾て君の爲め題して曰く「怡然有餘樂」と先生一流の墨痕と其意義豈に好個のコントラストならずや趣味は頗る書畫を愛好し藏する處亦多しと云ふ

眼科専門

三浦 幸彌君



君は、姫路藩士にして岡山醫學専門學校の出身なり、君在學當時の教頭は彼の有名な眼科醫界の泰斗井上通泰博士なりしを以て君は唯博士に學術上の蘊奥を授かりたるのみならず一面極めて清廉なる博士の人格に親炙し其訓陶を受けし故君の人格亦極めて清廉にして現下の世相に容易に見ること能はざる廉潔の高士なり、卒業後暫く同校の助手たるや君が監視する眼科の醫生頓に風紀更新せりと云ふ、三十六年來りて開業し將來明石に永住の筈なり、性温順篤實趣味として書畫を愛好し昨今最も畫に心を寄す、又居常讀書に親しみ、日本及日本人も愛讀の一なり

杏陰醫院主

柳川 芳太郎君



君は、神戸に生る其後母方の實家三田藩士大澤氏に養はる、明治三十六年入つて今の柳川氏を繼ぐ、柳川家は世人の知る如く十五代綿々たる舊家にして始め松平侯明石に卦を受くるや、國醫として召抱へられ三百石の知行を受く、斯の如きは當時の代に於て實に破格の待遇なりき、之を以て見るも同家が其藩に於ける家格及勢力の一般を想見し得可きなり、頃者海函橋本翁杏陰醫院の由來を作れり

君は、始め京都同志社に學べり、當時の學友にして最も親善なりしは故元良博士及び浮田博士等にして其他内田前外務大臣、徳富猪一郎諸氏の如きも

皆同窓の學友なり、故を以て先年同志社が大學組織に変更せられし際も態々上京して其事に預り前記の諸氏と相携へ同校進運の爲め盡力する處ありたりと云ふ同志社卒業後嚴父の命に依り更に醫學に志し、始め縣立神戸醫學專門學校に入り、中途更に東京醫學專門學校に轉じ卒業後各地に醫業を營み香川縣善通寺病院に副院長在勤中前記三十六年柳川家を繼ぐ事と爲り來つて明石人たるに至れり

君の人と成りは其性極めて温厚篤實加之其素養深遠なるを以て従つて識見該博、人格高尚、前に衆望に依り選ばれて町會議員と爲り、又町立各小學校々醫たり目下専ら意を業務に用ひる傍ら最も文學美術に興味を有し常に研鑽措かざるもの亦君一面の優美性を窺ふ可し、左記は其近什の一なり

吉野五首の内

狼籍落花春欲殘、金戈無影澗雲深、

南風不競北風勁、猶作當年防戰看、



明石病院長

金親雄君

君は千葉縣の人なり、始め海軍々人たらしむ事を欲して東京攻玉社に入り數學及び語學を専攻し殆んど其蘊奥を極む、特に數學の如きは最も其長ずる處にして専門の學士と雖も三舍を避くる程なりと云ふ、後志を變じて醫を學ぶに決し、時の大學撰科に入學せり、現今醫界に名を成せる荒木博士、岡玄郷男、緒方正清博士等は當時の同窓生にして今尙親交せりと云へり、君は斯の如く始めより専攻の素養ありしを以て其頭腦の明晰なる事殆んど其比を見ず、大學卒業後大學病院の助手を勤め順次累進して遂に同病院の内科学部長に昇進せり、蓋し同病院の一科部長は當時悉く博士或は相當の肩書あ

る人にあらざれば其位置に昇る事能はざりしに、君獨り其任に當りし者如何に其實力に於て卓越したる處ありしかを窺知すべきなり故を以て現今も君が最も得意とする處は内科なり、而かも外科亦特殊の技能を有す、昨年匹夫痴情の嫉妬より若き男女二人斬り附けられ致命傷の大負傷を負ひ女は兩耳さへ切り落されたるを君は能く巧に之を治療し二人共完全に回復せしめたる上女には更に耳を製造して原形を整へしめたる如き施術の巧知る可きなり

君は、又頗る議論家なり特に保儉學の如きは其最も精通せる處にして現に著はす處の保儉學は斯界の重寶とする處なり、更に又趣好としては非常の芝居通にて東西梨園の名士亦君の批評に聽き大阪道頓堀を中心としたる斯界は殆んど君の名を知らざる通人なしと云ふ、君の令息は岡山醫專の出身にして前途有爲の青年國手なり目下大阪にありて其家業を督せり



陸軍二等軍醫

菅 敬 藏 君

君は、大阪醫學專門學校の出身なり、卒業後神戸縣立病院に奉職し實地の研鑽中三十七年四月召集され、同年六月第四軍第十師團野戰衛生隊に所屬從軍出征せり、三十九年二月凱旋歸郷し同年五月開業す、現に豫備陸軍二等軍醫なり

君、人となり恬淡寡慾殆んど眼中名利なし、故を以て其名未だ大に露はれずと雖も至誠其職分を盡くし患者に叮嚀親切なること多く其比を見ず、而かも忙中能く少閑を利し讀書に親しみ、訪客を引き明石各階級人士の行動を知るの明恰も千里眼の觀ありと云ふ



陸軍三等軍醫

國賀至君

君は、縣下淡路の出身なり、夙に志を立て郷關を出でしも學資の後援絶ち爾
來自營苦學遂に内務省醫術試験に及第し免許狀を得て開業するに至れり
偶々三十七八年の戰役起るに際し臨時募集せる野戰病院附きの軍醫を志
願し採用されて三等軍醫と爲り戰役終局と共に目出度凱旋せり
其後當地に開業して今日に至り傍ら攝津紡績明石分工場附きの社醫なり
君其性磊々落落、其經歷に依りて歸納し得たる人格は更に一段の光輝を加
へ殆んど云ふ可き處なし、趣味としては何等取立て、云ふ程の者なく時々
斗酒尙辭せざるの慨あるは以て君の氣魄を窺ふ可きなり、



東本町眼科醫

安田半畊君

君は、丹波の人なり、始め福知山にて開業中なりしも彼の有名なる大荒水の
爲め同地が殆んど全滅の慘狀を呈したる時、四十年暫く其難を避けて明石
に來り開業したるが緣故と爲り、遂に目下の處にては當地を第二の故郷と
爲し永住の事に決心せりと云ふ

君は目下殆んど眼科専門の看板を掲げ、他科に餘念なきかの觀ありと雖も
其實全科醫にして各科共殆んど通せざる處なし、現に地方開業以前は東京
に於て彼の有名なるお茶の水佐藤順天病院に勤務せり、唯就中君自ら目下
専門の如く爲しつゝある眼科は日本に於ける眼科中の大家なる河本博士

に就き親しく特に意を用ひて研究したる處なるを以て開業後の今日も別科に比し別けて得意とする處なるべし

君は亦其性甚讀書を好み殆んど讀書虫とも稱す可く、百科涉獵至らざる無く、特に佛教哲學に興味を有し其一代の事業として前人未發の人生觀を著す可く既に稿を草しつゝありと云へば其出版の曉には必ずや讀書界の渴仰を満たす者あるべし君が其讀書虫なることを證明するには一場の奇談あり、即ち君は専門學校の出身にあらずして内務省の檢定試験派なり、從來百千の檢定醫其前後期を通ずる間には少くも三四年間實地の經驗を踏まざる者あることなし而かも君は獨り此規に依らず一個の讀書生何等實地の經驗なく直に受験して前後首尾能く合格せり以て君の讀書力決して尋常一様の凡なる者にあらざるを證す可きなり、近頃家兄丹波直入の名ある鴨波畫伯を學び丹精を試む吾輩は寧ろ君の多能に驚く



婦人科専門醫

賀川 滿陽君

君は原籍京都府の人なり而かも君は先考に至るまで家世々禁裏御所に奉仕せし家柄なり、現に先帝陛下の各宮内親王殿下御

誕生の折は君の先考常に産科に奉仕し御取り上げたる故を以て各宮殿下御婚禮の折御祝儀の御目錄をさへ下賜せられたる光榮を有せり、君は小學修業後上京して獨乙協會中學校に入り卒業更に千葉醫學專門學校に學び三十四年卒業其後京都醫科大學病院婦人科助手を勤務修業し三十七年明石に移居開業して今日に至れり、君軀幹倭少秀艷美女子の觀あるも其實質に至りては斗酒尙辭せざる氣慨あり談論風發書を好くせり

齒科 醫

添田 兵造君



君は、神奈川縣の出身なり、三十六年四月東京齒科醫學院を優等にて卒業し同年醫術開業齒科試験に及第し三十九年内務大臣より齒科醫開業免狀を下附され同年より當地に來りて開業し爾來今日に及べり、言ふまでもなく齒科醫の自家は各科醫の獨逸に於けると等しき意味に於て米國なりと言ふに異議なかる可し、即ち我國最近に於ける齒科醫術は多く其範を米國に採れり、君亦此の點に於て違漏なく最新の素養に此の最新式の修養を加味す、施術の精巧知る可きなり、君年齒尙壯、頗る前途を有す人物亦穩健能く語り能く談ずる處社交界の雄なり

(64)

相生町醫師

港 謙一君



君は、大分縣宇佐郡長洲の出身なり、本姓南氏、幼少の頃より彼の有名なる帆足萬里先生の高弟、米良東橋に就て漢籍を修め、傍宇津宮謙齊に醫を學べり、明治五年斷然志を立て大阪に出でエルメレンス氏に就き醫學を修め、後更に神戸病院長山田俊郷縣備教師ベレーの両氏に就き益々醫學の蘊奥を極めたる上、明治七年明石町に來り港氏を冒して開業するに至れり、尙開業後も米人にして實地家テラ氏に就き久しく實地を研究せり、而かも君を説く者は必ず君の創意發明せる神液を聯想すべし、港君神液とは獨り明石人のみに限らず、今は殆んど日本全國に響き互り更に外國まで

(65)

も知らるゝに至れり、而して此の不可思議なる神液は所謂其名稱の如く、殆んど神秘的にして専門の人と雖も漫りに他人の窺知を許さず、絶対に秘密を嚴守され、又其發明の動機も殆んど神秘的に出來、君が九死一生の場合に創意せる者なるを以て目下の處にては一部患者の希望に任せ、投藥施術するのみなるを以て其名聲の大なるに似合はず、未だ一般人類界の幸福に資する處少きは世界人道の爲め遺憾とする處なり、此の點に就ては其秘密を守り、且つ君が發明者たるの特權を保護すべき嚴たる國法の存するあれば、希くは廣く一般に販賣の方法を探られむ事を希望する者なり、横田大審院長、大阪地方裁判山本檢事正、理學博士松村松年氏等皆君の神液に救はれ感謝の意を表せし人々なりと云ふ、君又詩を善くし書を善くす、其人物信念極めて深く、明石基督教界に於て最も有力なる信者なりと云ふ



相生町港醫院長ドクトル

港 謙 治 君

晩近宇内の情勢から察すれば、總ての事物に新しい生々たる氣味が充滿されてある如く、想はしむる者米國主義である、唯一言に米國主義と言つたばかりでは頗る莫然として居るが、而かも最近十ヶ年間に於ける各般の事物に對する米國多數のやり口を回顧して見ると、此の言が決して不當で無い事を認承し得るであらうと思ふ、即ち政治界に於ける革新の氣運は勿論遂に最近民主黨の天下と成れるが如き偉人ルーズヴェルト氏が能く此の氣運を觀破して自黨の刷新に當れるが如き其他工業商業教育學術等皆一種新進なる生氣を帯びて居ると云ふ事は、蓋し萬人が認めて以て異論はある

まいと想ふ

君は、能く此の氣運と大勢とを認め以て其勢に乗せむとする處、確に時流を抜いた所謂超凡なる新しき人物と稱しても決して不當であるまいと想ふ如何となれば從來吾國に於ける醫術の沿革に想を及ぼして見れば直に此の理由は判明するのである。即ち吾國の醫術が世界の先進各國に比較して遜色なしと迄言はれるのは其範を殆んど獨逸に取り獨逸に學んだからである。現今斯學に掛けては何と言いつも矢張り獨逸が第一だ。而かも君は今尙第一と認められたる此の獨逸を採らずして新進の氣運を採り米國に學んで醫學を研究目出度螢雪の功を積み月桂冠を載き歸來父君の業を助けて今日あるに至れる處確に一見識と云ふ可しである。即ち幼少上京東京中學に入り傍外人に就き語學を學び四十年渡米コロラド洲立の大學に醫術を學び四十五年六月卒業七月歸朝したのである。



郡 獸 醫

中川彦十郎君

君は、姫路藩士にして十一年前本郡に來りて獸醫を間業す。本郡に於ける家畜の醫業を専門にする者は實に唯君一人なり。故に傍ら本郡よりの囑托を受け大に明石郡内畜産事業の改良繁殖に心を傾け既に「家畜飼育の棗」なる書籍を著し印刷實費を以て郡内各町村理事者及び當業者に配附し一意専心斯業の奨励に身を盡せり。今試みに君が著す處の棗に就き其内容を繕き見れば大要左の次目あり

一、牛馬飼養管理法、一、牛馬の素人的診斷法、一、牛馬疾病應急手當法、一、牛馬年齢鑑識法、一、畜牛の用途、一、自家用牛乳、一、牛馬去勢術、

其説く處簡易明晰粗にして簡に失せず又煩に流れず如何なる素人にても一讀了解直に實行し得せしむる處唯に一般當業者の指南者たるのみならず又同業者の好參考書たるを疑はざるなり

君は斯の如く本郡に來りてより殆んど寢食を忘れ斯業の爲め東奔西走郡内の當業者を指導したる結果爾來明石郡の家畜産業は非常なる長足の進歩を爲し從來縣當局者に稍々もすれば輕視せらるゝの傾きありし明石郡畜産業を最も重要視せしむるに至れる如き君の力預りて多しと云ふ可きなり

君は曾て二十七八年戰役に從軍し明石に來つてより郡役所の囑托たる外警察獸醫の囑托をも兼ね人物頗る圓滿の士あり



才賀商會顧問工學士

井上徳次郎君

君は明石に於ける新智識の必要を感じ率先其任を以て自から當り帝國最高の學府たる東京帝國工科大学に學び新教育を受けたる先覺者にして工學士の肩書を有する名士なり

工科大学卒業後關西鐵道株式會社に入り後同社の専務取締役と爲り専ら經營の任に當り大に同社の隆盛を見るに至りしが三十九年時の政府鐵道國有の案を具して帝國議會に提出するに及び當時民論は反對の輿論沸騰し頗る喧々たる者ありしも遂に盲從黨の多數に擁せられ兩院を通過したるより決行を見るに至り同社も被買收社十七社の一として其内にありし

を以て當然國有たるの運命を有するに至り、君も國有後引續き院線の職員として従業し、港町營業所長の重職を拜命し、高等官二等に叙せられたり、蓋し本郡出身の文武官を通じて勅任官たりし者は君を以て、嚆矢とし且つ現今にては尙君一人なり

其後官を辭して、大阪才賀電氣商會に入り、現に其顧問なり、才賀電氣商會は目下の處尙多少疑問なしとせざるも、而かも才賀君が既往に於ける斯界の爲めに奮闘努力したる功績は何人も之を認むる處にして、昨秋一度將に破産の悲境に陥ち入らむとして尙能く之を支へ、最近將に整理成らむとするに至れる者、才賀君個人の精力奮闘固より預つて力あるべしと雖も、君が其間居席内にありて能く之を補佐し誘導したる點亦預つて力ある可きは、何人も認めて異議なき處なり、今後同商會の再發展と共に君の手腕に待つ處益々多かるべし自重せよ



瓦斯會社長

米澤長治郎君

君は、徹頭徹尾意志の人なり、君一家の家柄及び先代長衛氏の勤勉勢力に依りて築かれたる米澤家一統の事業及び家風は、最早世人の知悉する處なれば、今更吾輩の蛇足を要せざるべし、而かも君が此の意志の人たると同時に、創業的人たる事は、殆んど先者と其型を等しくする人物たる事を信ずる者なり

君は、曾て一度失敗せり、されど此の蹉跌は寧ろ君の爲めに稱すべき人物の反影なり、如何となれば君にして若し小成に安んじ媮安を事とする人なりせば、斷じて此の失敗有る筈なければなり、人間萬事塞翁の馬にして當時の

失敗が却つて今日に至り君の幸福たらしむ可きは恐らく君と雖も豫期せざりしならむ、失敗は成功の母とは確に千古の名言と云ふべし

君が創業的の意志は中途一度挫折し殆んど一個赤裸々の人をして再び今日の如く實業界に活動し見事に復活せしめたり現に君が主宰する明治興業株式會社、明石瓦斯株式會社は何れも君の創意に係り今日の成功を見るに至れり、特に後者の如きは東京、大阪、神戸、姫路等諸派の争願ありて非常なる困難ありしに拘はらず遂に神戸姫路の兩派を操縦し四十三年悉く合同して君に擧げて其任を托するに至れり

君は、斯の如く意志の人なるを以て其自己の處信に忠實なること殆んど其比を見ず、一度見を立て事を成さむとするに當りては必ず彼岸に達するまで猛進す之れ君の特長なり、其他好んで後進を誘掖する美德の外趣味として何等特筆すべき者なし

五十六銀行頭取

米澤吉次郎君

君は、創業に守成を兼ねる人なり、人或は君が行動の外部に現はれたる一部を目して唯單に守成一遍何等融通の利かざる人物なりと爲すは誤まれ、甚しき者なり、試みに鑑みよ、若し君が或者の觀察する如く假りに守成一遍全く融通の利かざる人物なりと假定せんか、如何で能く今日の如き大を成し得むや、即ち今日の大を成し尙益々今後に大を加へむとする所以は、濫順平靜の裡能く張良の思索を巡らす、創意創業の志大なればなり、而して其創業の結果を守成てふ萬全の方法に依り維持せらるゝを以て其の基礎の強固なること所謂大盤石と云ふ可きなり、此の點君は正しく三菱の彌之助男に恰當す

君が資産の大部分は、先代長衛翁に得たる者なる事は、今更云ふまでもなし

従つて今日の大を成すにも其強固なる基礎が十中の八九まで預りて力ありしことも否定す可からざる事實なり、されど其當時の資力と今日現在の實力との差額を知る者は、決して君が唯守成一遍の小成に安んじ居る人にあらざるを知り得べし

君は、人と對するに、徹頭徹尾温柔恭謙、一言一句一事一物、決して苟もせず普通多くの商人に有り勝ちなる駆引なく、權謀術數の跡毫末も認めざる處、現下の世相には確に稀有なる誠實の人物なり而かも事を成さむとするに當りては深慮遠謀細心翼翼名利の外に超然として自己の信念を斷ずるの點主義の人、人格の人にあらざれば到底出來能はざる事にて之れ亦君一面の美德なり君は、又趣好として書畫、點茶等の風流事に限らず、常に新刊の書籍雜誌等を涉獵して新智識の修養に想を致すこと多しと云ふ



攝津紡績明石分工場主任

松原益次郎君

自から疆めて息まざるは、天道にして、君子たる所以なり、虞舜の慈々として善を爲し、大禹の日に孜々たるを思ひ、成陽の苟も日に新なる、文王の違あらざる、周公の坐して以て旦を待ち、孔子の憤りを發して食を忘るゝが如き皆是れなり、彼の徒に靜養瞑坐を事とするのみなるは、則ち此の天道と背馳せり、西哲亦其自叙傳に曰、天は自ら助くる者を助く、と、聖賢の言古今東西其軌を一にす、畏くも、明治大帝戊申に詔書を下し賜ひて、弘く一般國民に此の意味の實踐躬行を督し給へり

君は、岡山の人、明治二十五年東京高等工業學校卒業し、爾來二十有餘年間一

日の如く常に自ら謙み自から疆ふし、専心業務に勵み且つ自己の技能を研
けり、君は實に古人の所謂爲す無くして而して爲すある之を誠と云ふ爲す
有りて而して爲す無き之を敬と云ふが如く、眞個誠敬の人にして當代青年
の模範的紳士なり、攝津紡績の社長竹尾治左衛門君が大坂實業界に於て殆
んど稀なる誠敬の君子人たる事は世人の知る處なり、君は即ち此の社長の
信賴を專にし、日常の行動殆んど其型を同じくするのみならず、其精神人物
亦殆んど同一型にして世人が第二の竹尾君を以てする偶然にあらざるな
り、而かも君は最高の専門的新智識を加味するの點に於て其將來は更に一
段の強味を有せり

君は斯の如く厭く迄自謙自疆の人たるを以て偽善を惡み人と接するにも
謙遜して多く語らず、唯連日職工と親しく相互し、孜々營々教養するを以て
無上の樂しみとせり、趣味としては、頃來少しく謠曲、圍碁、書等を試みる位な
り



明石電燈會社取締役

石野半七君

實業家に要する最も大切なる要素は智略と膽の大ならむこと之れなり、若
し此の二者を缺ぐあらむか必ずや其人の經營に掛る事業は將來永く完全
の發達爲すこと能はざるや必せり、余は此の點に於て明石電燈株式會社創
立の首腦者たる石野半七君亦能く此の兩者を兼ね得たる理想的實業家た
ることを想はずんばあらざるなり

君が明石町に電燈會社の創設を提唱するや、當時の町民は殆んど其電燈な
る者の觀念すら無く、洋燈を以て最上と信じ、甚しきは行燈尙可なりと稱せ
り、而かも君は此の間に起ち幾多の反對と、困難とを排除し、斷然斯業を提唱

し卒先資を提供して遂に今日の隆盛を見るに至りし者、之即ち先見の明を有する智謀の人にあらずして何ぞや

君は、又曾て火災にかゝり、一朝にして其資産の大部たる五萬有餘圓の財産を烏有に歸せしめたることありしも其當時より今日に至るまで未だ曾て半言隻句此の事に關して愚痴を漏したること無しと云ふに至りては誰れか其心膽の大なるを賞せざる者あらむや

君は、此の智謀を有し、且つ此の膽を有す、故を以て自己を處するには能く其自己の力量を以て處分す、其の結果他人に謀らざるを以て何と無く自尊の風ありと雖も、其心術の分明正大なる點は殆んど稀に見るの人物なり、唯憾むらくば其素養に於て幾分の不足なしとせざるも斯るは過渡時代の結果にして君の輕重を問ふに足らざるなり、君尙春秋に富む君の如き意志の強固なる人物は須らく其半生を公益事業に盡せ至囑



上の丸鈴木農場主

鈴木武君

君は、明石に於ける明治思想先覺者の一人にして同時に農業界の恩人なり而かも維新前には尙先考に従ひ藩主に使へ、大政維新の後にも引續き藩の徴兵として出使明治二年十九の時天覽兵の嚆矢たる光榮さへ荷へり、其後御用濟みと爲り歸郷農業に従事し専心其改良を計り以て卒先範を示す、明治二十八年大阪に於て開設せられたる全國第四回勸業大博覽會に大麥を出品し有功三等を授與せられたるが如き其他各府縣に開かれたる大少幾多の展覽會毎に必ず出品し其都度賞を得たるが遂に明治四十二年十二月九日大日本農會より農業改良の功勞者として表賞され、總裁貞愛親王殿下

より名譽賞状を下附せられたる如き以て君が如何に斯業の爲め盡されたるかの一一般を窺知し得べく現に今尙明石郡農會長として其職を帯べり、其他教育上に關しても君の過去に於ける功勞は明石教育の沿革史上より逸すべからざる人物なり、即ち夙に學務委員として赤石小學校時代より專ら意を注ぎ、又幼稚園を設立し自から園主と爲り親しく訓育の任に當れる如き其一斑なり其後町村制實施後町會議員に推選さる、尙君が明石に於ける牛乳採取の祖たる事は世人の知悉する處にして特に彼の三十四年法律第三十五號改正の爲め本縣委員として全國畜牛家大會に出席し熱心盡力したる如き確に君が公的生涯の一面として特筆すべき點なり、君は又明治十二年基督教の浸入を妨害すべく赴き却つて牧師の説教に依り其道に入り現に同教の熱心なる信者なり、君五男あり皆高等専門の教育を受け悉く有爲の前途を有す一門の繁榮賀す可き也



木下鐵工所主

木下吉左衛門君

明石の將來は工業製作を主と爲す可きか、或は又從來の如く有名無實の觀光地たる美名の下に甘んず可きかは經世家の最も意を要する點にして吾輩外來の浪人俄に斷言す可き者にあらざるも而かも現狀の如き無策なる何れとも附かぬ有様にては到底明石の將來に發達の望み無きは智者を俟たざる可し、君は此の點に於て一方の積極的勇將なり

君は、木下鐵工所の主權者なり、而して同時に明石の將來は工業製産品の産出に據らざれば其發達期し難しとの見地に立ち自から其實行者たるの識見を有する人なり、君が此の理想的主張は既に明に實現せられ最近の統計

に成る明石町輸出物産價格表を見れば君の工場製作と思しき物三萬餘圓を計上し居れり、されど吾輩の確聞する處に依れば實際は夫れよりも遙に多額にして昨年中の生産額は確に二十萬圓を超過し居れり、現に目下日々百名内外の職工を使役し間斷なく作業し居るに見るも明白なる事實なり而して昨今其製作に掛る重なる工作機の種類は最新木下式船舶用吸入瓦斯發動機、改造吸入瓦斯發動機、無點火シングル石油發動機、最新木下式無點火石油發動機、電氣發火石油發動機、最新式電氣發火石油發動機等にして就中最新木下式吸入瓦斯機は殆んど理想的にて從來の物に比較し二十馬力一機の燃料一日九圓の減額ありと云ふ、昨年姫路に開設せられたる中國六縣共進會に於て有功一等金牌を得たる偶然にあらざるなり、需用先は内地は勿論遠く朝鮮、臺灣、滿洲等に及べり、君人と成り堅忍不拔最も斯の種の事業に適す將來の盛運期す可き也



明石郡參事會員

大山安治君

君は、確に現代明石の代表的人物なり、勿論三萬町民の内には根本的に君と相容れざる少數の人あるは事實なれども、大体に於て多くの點が君の如き主義にて明石人の十中八九まで行動しつゝある事は恐らく否定し能はざるべし、此の點より君を稱して概活的に現在の明石代表的人物と稱すること亦敢て不當にあらざるべし

何れの國、何れの土地にも其土地相應の風俗習慣あり、従つて幾百年連綿として先天的に傳はり來れる風俗は例令他國人が卒然來り見て其異風を怪しむとも、古來以て美風と爲す者は其土地の誇りにして如何に之を他より

強いむとするも一朝一夕容易に改むること能はざるは、日本民族性の特長なり、此の理は明石町も其お多分に漏れざるのみならず、却つて守舊的精神の強盛なる事全國其比を見ざる程なり、而かも君は終始此の間に處して誤らず、石橋を叩きて渡る底の周到なる用意の下に穩健なる改善方法を守り來りしを以て其一生平々坦々殆んど何等の奇跡なしと雖も、萬全なる健實の行路は取つて以て範と爲すに足るべし、明石人の多數が君と同一型なるは維新の際傑出の人物なく従つて急激なる思想の變動なく現状を維持し來れる以所なり、君は當初多くの青年子弟を教養し後半生は常に立法部の人たるも斷じて責任の位置に起たず、唯指導的監督者を以て終始せし如き誠に敬慕に値せり、今回町會議員の改選に際しても時代の推移を料り高踏勇退して位置を後進に譲れるは益々其大を顯はし一層君一代の記録を飾り、嗣亦帝國最高學府を経て明石青年の駿才なり後ありと云べし



株式賣買取引所主

本岡武助君

君は活動家の典型なり、所謂ビジネスの人なり、君が今日あるは確にアクター即ち活動的精神常に活躍したる結果たることは蓋し萬人の認めて異論なき處なるべし、試みに君が既往に於ける半性の經歷を緝けば宛として一種の冒險的小説を見るかの感あり、誠に好個の立志傳的奮闘史と稱す可きなり

君は、斯の如き奮闘的經歷を有しながら、其半面に於ては細心周到殆んど別人なるかの如き觀あり、粗密両々相待つて益々其大を爲せり、君の經營せる事業が今日の如く隆盛を來せる所以は、其事業經營に對する外面の大綱方

針放膽なること群を抜き、而かも其裡面の鑄策敢て一滴たりとも漏さざる底の緻密なる作戰計畫は預りて力ありしや論を俟たざる處なり。君は、有体の處敢て學識深遠なる素養ありと云ふにあらず、從つて陸上水練を説くが如き迂遠なる意味の商機を解せざるも、日常の商機を解する點に至りては殆んど何人と雖も君の壘を冒し能はざる可し、曾て中京名古屋をトし商業を營むや君獨特の活動的商畧を以て其地幾多の商家に顔色なからしめたる如き以て其一般を窺知し得べし。

君の人と成りは温良平和、近時明石に於ける社交界の花形として令名噴々たるは世人の知る處なり、而して吾輩が特に君に多とする處は更に其俠的義心の點なり、現に君が此の義心の爲め蜚雪能く其功を現はし某大學を卒業し辯護士試験にも合格せし人あり、尋常市井の人如何で此の態を學び得むや。



明石郡會副議長

前田孝典君

君は、蓋大山君と同工異曲の人なり、即ち既往年間に於ける外部に現はれたる經歷は殆んど其形を等しくすると雖も、而かも委細に兩君の人物性行を比較する時は遂に一致すること能はざるのみならず、却つて相反する點多きを想見し得べし、君は斯く一方の主將にして其現はれたる結果は約するに相類する處多きは奇と云ふべし。

君が、始め第二國民養成の任に當り、後實業家として銀行に入り、傍ら町會議員、郡會議員等の公職を帶び、多年公共事業に一身を捧げながら、一度も責任の地位に起たず、終始指導者たり、監督者たる點は、即ち大山君と同工なり、然

し大山君の立法部にあるは大山君自身にも、又他の多くの人も殆んど晩年の大久保彦左衛門を以て目せり、されど君は然らず、君は多くの場合寧ろ理事者の味方なり、自から發案者たらずと雖も、積極的に賛成者たる人なり従つて多くの場合理事者の擁護たる觀あるは必然の結果なり、此の點に於て君は差向き本多平八郎の役なり、大久保と本多は等しく徳川に取りて柱石の臣なり、されど晩年の彦左衛門は或る場合に煙むがられ、平八郎は徹頭徹尾帷幕に居り或は戦線に無くて叶はざる人なり、故を以て前若は時に意見の衝突ありて觀客に喜ばられ、後者は變化なき爲め何等の快感を與へざる傾きなきにあらざるも遂に徳川三百年の基礎を建設せし殊勳の第一は後者に歸せり、此の意味に於て君は實に明石現在の町政に關する事實上の實權者たると同時に其結果の善惡何れに對しても其大半の責任を負はざるべからず、君は此の點に於て實に明石第一の人より尙最も詩を善くし佳作頗る多し



米澤 裕君

人文開發程度の底級なるだけ其れだけ劣惡の人物幅を利かし横行跋扈して一小地域に自から其醜を誇る者多きは古來各地の文明史能く之を證明する處なり蓋し此の理は不幸にして明石も其流を脱すること能はざるのみならず却つてより甚しき者あるを筆者は特に遺憾とする者なり、試に現下の明石を見よ彼の有志と稱する者悉く市井の無頼と等しく恒産なく恒心なき唯口舌の徒のみにあらずや、高節の士が其間に伍するを潔とせず、高踏勇退せむとする固より其處にして、我が米澤君の如きも實に其一人なり、君は夙に商業學校を卒業し、總ての新智識を修得したるのみならず、居常讀

書に親しみ凡百の新刊亦悉く君の机上に集るを以て其識見に超々たる不群の想ありて時勢を達觀するの明あり而かも又名利の外に超然たる高節の士なる事は世人の認めて異論なき處なり故を以て衆望益々君の一身に蒐り前に町長に推されしも固辭して受けず今回町會議員改選に際しても固辭して起なざるを以て千秋の遺憾とせり料るに明石の思潮には二大暗流あり即ち一は極端なる守舊派にして一は時代思潮に伴ふ可しとする新進の穩健派なり前者は目下跋扈する野心家にして明石の事は明石人自から成し外來人を絶對に排斥すべしと云ふが如き赴建式のホイコット人種なり後者は無論新進の士少くも明治以後新教育を受けたる人々にして君は正しく其派の代表的人物あり試に近什一律と録し其風懷を偲ぶ

偶 成

走名奔利客、焉識聖賢情、舉世皆甘濁、何人共話清 江斜日暗風月小、
窓明羨茗繙書卷、靜聞松籟聲



瓦斯會社支配人

淺田加穂君

君は才子にして又意氣の人なり、夙に大阪第三高等中學校の豫備門に學び更に藤澤南岳翁の門に入り漢學を專攻す、後大阪府廳に入りて筆刀の吏と爲り更に神戸市役所水道課裁判所書記等を奉職せり、其後志を實業に轉じ暫く大阪府下富田林河内貯金銀行に勤めしも君の志は牛尾より鶏口にあり、即ち翻然其從來の業務を擲ち故山に歸りて言論の事業を起し社會の木澤となり經世の任に當れり、當時君が健筆を振つて世人を警醒せしことは町民諸君の知る處なり然るに一昨年來、米澤長次郎君が瓦斯會社を起すに至り遠縁の關係を以て君は再び實業界の人と爲り同社に入りて支配人と

なり其創業の事務に當り盤根錯節遂に能く本年より營業を開始するに至り今や同社の業務擧げて君の双肩に掛れり而して君が半性の心血を注ぎし新聞事業は擧げて講口君の經營に任せ今回更に朝日君に一任せり而かも其の一任すると云ふは名實正しき一任にして何等新聞其者の意義を解せざる無識の痴漢と異れり新聞なる者は言ふ迄もなく社會の公器也決して私人の凶器にあらざるなり若し私人の經營に係るの故を以て其人の私心に依り作りし新聞は公器にあらずして兇器なり所謂狂人の銘刀を持すると等しく其危儉云ふべからず現に某の如き常に此の心を以て新聞を作り始め辭を卑ふして漸く聘し得なる記者を遇するさへ恰も雇人の如き思をなし公然口にして憚らざる者あるに君は即ち然らず虚心坦懷一任して敢て顧みず精神的に優遇する處意氣の人にあざれば能はざるなり更に人と接する八面玲瓏圓轉滑脱の妙殆んど其域に達せり



明石合同印刷株式會社

專務取締役 小松光雄君

君は始め暫く育英の任に當りしも間も無く鐵道交通の業に志を轉じ二十一年より三十九年に至るまで山陽鐵道株式會社運輸課に奉職し其後國有となり引續き鐵道院本部に職を奉じ再昨年辭して郷に歸り曾て自から提唱創立せし今の明石合同印刷株式會社に昨年入つて專務取締役となり現に其經營の衝に當り居れり君が曾て鐵道事業に奉職中非常なる殊勳として特筆すべきは二十八年九月笠岡驛長勤務中の出來事なり當時日清戰役の終期に際し病兵其他の輸送にて交通事業は吾國空前の繁忙を極めし際或夜尾道糸崎間なる木崎の附近線路破壊され未發列車は間一髮殆んど死

地に入らむとする時君の機智能く之を豫知して無事ならしめ得て其筋より特別賞典ありしが如き確に君半世の功勞なり

君は、一見頗る時流を逐ふの勸なきにあらざるも此は唯皮相の見なり疑ふ者須らく君と一座の對談を交ふ可し即ち談論風發而かも多趣多様の實業談、政治論、美術文學談行くとして不可なるなし而して各一隻の見を有し談論に根據あるは其素養の一面を窺知すべし且つ一片稜々の氣骨あり敢て何者にも冒かさず曾て舊藩主と藩士間の利害調節を計るに際し侃諤の苦諫を憚らざりしが如き以て其半面を證すべし

君は獨り言論の人たるのみならず又頗る趣味の人なり最近崎庵翁薄遊漫載を編して江湖に配附し更に先師豪谷翁の傳記を著し以て先哲を表賞せんと勉むるが如き心事の高潔知る可きなり加之文筆彬々たり蓋し君は所謂畫手文心に更に辯論の雄を加へたる三能の士と云ふ可き也



岩岡村長

木下虎彦君

君は九州熊本の出生なり始め明治十九年本縣巡查を奉職し任に岩岡に赴く其後神戸には幾多の縁類知己ある處より二十五年請はれて今の木下家を相續せり爾來同村にありて常に村内の公共事業に心を傾け盡し一意専心自治制の發達に努力する處ありたるが村民の人望悉く君に歸し遂に大多數を以て村長に擧げられ爾來改選毎に再選く今回にて四期選舉され其回を重ねる毎に益々信望を加へ居れり

從來岩岡村は郡内に於て最も貧村に屬し従つて村治上にも種々困難する處多かりしが君一度選ばれて村長となるや先づ銳意生産事業の改良獎勵

に全力を注ぎ、交通の爲めには郡里道の改修を計り、全村に幹線四通し、殆んど舊來の面目を一新するに至れり。

其後村政の改善を期するは先づ村民をして餘裕を生せしむるにありと爲し、農業特志家谷口彌平治氏が常に種々なる試作を企て改良に勉むる處あるを更に慫慂して米國種の葉煙草植附を試みし以來數年間苦心經營君は常に外に出で其筋に對して總ての手段を盡したる結果其勞空しからず累年非常の發達を來たし現に昨四十五年度の如きは其産額總計實に十餘萬圓に上り一反歩の收穫少くも六十圓多きは百圓を超過する程の良結果を得果然一般村民の生活状態殆んど一變するに至れり、今や岩岡産の米國種煙草は其品質本場産と多く譲らず名聲全國に普及せり、蓋し一村一種の物産にて一時に十萬圓以上の産額は本郡の首位と稱するも過言にあらざるべし、君は又社交場裡の人として圓轉滑脱些も九州系の圭角を認めざる處眞に稱す可きなり、想ふに君の今後は政壇上の人なるべし。



町會議員

楠木登喜雄君

君は、明石に於ける立憲的政客として先覺者たると同時に斯界の闘士なり而かも君が早く郷關を出で四方の志を抱き主義の爲め各地に轉戦し既往の半世期間殆んど明石と没交渉の觀ありしを以て一部有識の士以外には普く其人と爲りを知る者少しと雖も君の如きは確に明石郡の隠れたる主義節操ある名士と稱す可きなり。

君は、九才にして經學武藝を修め其後小學創始の際早くも教員の職を奉せり而かも君は更に發奮して官立師範校に入學し十一年卒業専ら普通教育に従事せりされど君は此の小成に安んじ其一生を村夫子に送らむとする

には餘りに志大なりき、果然明治十四年彼の國會開設の詔勅降るや君は決然志を政治に傾け播州一圓の團結を企て自由黨の先覺中島信行翁に従ひ播州立憲政黨の樹立を計り明石に自由社を創設し盛に政談演説及び政黨の事に奔走し傍ら明石城保存と明石港灣改良を努め又生命保險業の一社を創設せり十五年遂に上京して朝野新聞に入り國友會に加盟し馬場辰緒末廣重恭等の諸名士と交友し政談演説に勉む十七年更に日蓮宗大教院に入り大に宗學研究と普及に従事し岡本柳之助氏等と日宗の改革を提唱し筆舌論戰殆んど日を接せり其他英國汽船ノルマントン號沈没事件に關し國民の敵愾心を喚起し又宗門事件にて數萬信徒を代表し内務大臣に直訴したる如きは皆君の一代を飾る可き記録なり三十七年歸明して實業に従事し傍常に部落及町政の事に心を傾注し居るは世人の知る處なり今回舉げられて町選良たり



町會議員

佐野木延三郎君

古の人言を爲して曰く「三軍和せざれば戰を言ひ難し、百官和せざれば以て治を言ひ難し、書に云ふ、同寅協恭和衷なる哉、唯和の一字治亂を一串す」と蓋し此の數言は專制時代の格言にして現代の立憲治下に斯の如くあるべしと云ふは事實有り得べからざると且つ又絶對の和は斷じて有り能はざる事なれども、而かも相對的の和は極めて必要の事にして今日とても或る程度迄是非無くて叶はぬ事柄なり、而して君は實に明石町に於ける此の必要なる分子中の主要なる一人なり、君が既往に於ける公人としての經歷は曾て町會議員たりし外、久しく明石郡水産組合會長に選ばれて其職を勤め、現

に明石浦漁業組合長たり、今回再び最高點を以て町會議員に當選せり就中水産事業に對しては殆んど明石の代表的人物なり

君の町政に對する意見は、其所屬大正會員たるに見て原井君等と同一たるべく想はるれど君平素の言動に見る時は必ずしも悉く然らざるが如し原井君は徹頭徹尾爭鬪主義の人なり其の然る所以は同君が既往明石町に於ける公生涯の事實明に之を證明せり、今回の改選に際し同君が不幸にして豫期に反し非常の少數にて落選せしは何等か此間の消息を説明する者にあらざる無きか、而して君が同君と正しく反比例の結果を得たる事は亦君の人物に對する傍證として冒頭に掲録せる吾人の觀察が確に誤り無きに庶幾を信せんと欲する者なり余は此の點より君を信すること益々深きを以て社會は破壊のみが能事にあらざる所以を同志に誨へ併せて指導せん事を希望する者なり

町會議員

吉田順藏君

君は、加古郡別府多木家の出なり、即ち家兄は増次郎氏、姉は久米治郎氏の室なり、君は幼少の折今の吉田家に養はれ繼ぎて嗣と爲り其の姓を冒す、夙に笈を負ふて上京し學を修め家業の傍ら居常志を町政に傾け自治制の改善に意を致せり、這般町會議員全部改選に際し二級より推されて候補に起ち開票の結果大多數を以て當選の名譽を得たり

君は、今回當選せる町會議員中の最少壯たると同時に最新智識を有する前途有爲の人なり、其の町會議員としての技倆如何は須らく今後の實戰場裡に徴せざれば忽卒に斷言するを得ざるも從來の政戰場裡に於ける經歷と今回の町會選舉戦裡に於ける手腕は君の將來を説明して遺憾なきを感ずんばあらざるなり、現に一派の反對者が君等の町民會を惡口雜言罵詈中傷

至らざる無きに、唯獨り君を極力持上げ譽め囃やす處、一は從來の私交關係と一は彼等の常套手段たる自己の爲めにせむとする權謀策其大部分を含めりと雖も君の平素を知るだけ夫れだけ君の實力を認識し得たるの結果たるや明かなり、故を以て彼等は如何なる方法手段を弄しても君を町民會より離間せむことに苦心慘憺たる在様なり、されど君は私を以て主義を曲げる程の輕薄なる人にあらず、又彼等の如く權勢私利の爲めには如何なる阿諛をも爲すことを耻とせざる程の厚顔なる人にあらずして、實は却つて彼等の無耻を陰に嘲笑し、且つ憫み居れり、君は差し向き町民會の兒玉將軍なり、君等の率ひる全軍の興廢は擧げて君等幹部の畫策如何に存す自重せよ、趣味として圍碁は三度の食よりも好めり



舞子介類館主

矢倉和三郎君

君は、大阪の人十數年前來りて垂水村の中山田村舞子公園の西端海濱に居をトせり、始め古錢を蒐集するを樂しむと爲し居りしが貨幣の起源は貝類より姑まりし者なる事の研究を積むと同時に各種の貝類を集めし事遂に其動機となり、明治四十一年七月自から今の介類館を開設し公衆の觀覽に供し且つ同好の士と共に益々斯界の研鑽に資せり、蒐むる處二千餘種最新式の分類法に依り整然として硝子戸棚内に納め、其他應用品たる得意の伊太利式彫刻美術品を始め美麗なる諸製作品をも配列し同好者に販賣し居れり

本年は創立五週年に相當するを以て普通教育的に一般の爲め各地に通俗貝類巡回講演會を開き且つ同館特集品五種を繪はがきと爲し發行する由なり伊太利式彫刻とは其貝類の有する色層を巧に利用配合して人物花鳥草木其他適宜の意匠を貝面に彫刻せる者にして其天然の色合を利用し恰も精巧に彩色せる觀あるに加へ其彫刻又頗る巧妙を極む斯の如きは目下我が國に於ては殆んど君の獨占にして、畏くも過ぐる四十四年陸軍大演習の爲め先帝陛下岡山姫路に御駐輦の際各種の彫刻品を天覽に供し御賞讃の榮を得たりと云ふ其他學務委員に選ばれ公共事業に盡す處多し斯の如く君は私産を投じ多年一日の如く斯業の改良に盡し今や京都の平瀨氏に次ぎ其名全國に普く知らるゝに至れるは獨り君が名譽たるのみならず我が明石郡の誇りなりされど縣及び郡下具眼の士尙君が公益的に經營の衷情を察する者尠きは遺憾の至りなり



朝霧燒本家主人

戸田 秋 嶺 君

君は所謂明石燒の總本家本元にして現に明石特産中の白眉として聲名高き朝霧燒の本家なり君の祖先は遠く舊藩主松平侯以前小笠原侯の時代より其名を成し當時明石小燒と稱して藩侯の御用命をも受けたる程なりしが其後小笠原侯國更へと爲りし爲め君の祖先も一時在所に居を轉せしも松平侯の時代と爲り再び明石に來りて現業を開始せり爾來君に至るまで連綿として十一代家祖の秘傳に據る一家相傳の特別製造法は君に至りて益々其特能を發揮するに至れるなり

君の代に至り君が苦心經營の結果發明したる南蠻燒は遠く其原料を朝鮮

半島の長白山下に採り、古代南蠻焼と稱せし和蘭貿易の隆盛時代にありし古器物に模したる物なるが其古色蒼然として而かも形容の風雅なること一見殆んど時代の實物と異なる處なし、君が此の發明は獨り君の名譽にして君の家業を益々隆盛ならしむるのみならず又實に明石の特産物として益々明石の名を天下に紹介せり、現に君が許に東京始め三都五港は勿論殆んど日本全國の偶々より此の特製品の注文陸續絶へ間なしと云ふに見るも如何に時好に投せるかを知る可きなり

君は、又一生の赤誠を注ぎ丹精を凝らして謹製せる小形の水差を、今上陛下の皇太子にまします頃奉獻して御嘉納あらせられたるが如き、千古の義士大石良雄氏の肖像を特製せるが如き、目下更に後世萬代の師表たる可き乃木將軍の肖像に關し工夫を凝らし居るが如き、決して君が尋常市井の同業者の比類にあらざるを證すべきなり



江井島尋常高等小學校長

永田清吉君

教育家に貴ぶ可きは人格と自己の修養なり、若し其何れか一を欠がば如何なる才能技倆を有することも要するに教ふる器械に過ぎずして完全なる教育家と稱すべからざるや、今更言を俟たざるべし、吾人は此の意味に依りて最も完全に庶幾き理想的教育者として江井島尋常高等小學校長永田清吉君を推稱す、君は郡下大久保村の人なり、夙に師範學校を卒業し三十年間終始初等教育の爲め其一身を捧げ勤勉力行す、始め大久保校に職を奉じ四十年江井島校分立して新に高等小學を併置するに至り、君は其校長に榮轉し爾來今日に至れり、筆者一日君を其校に訪ひ、君の採り來れる主義を問ふ

君欣然として答へて曰く

私の主義は總て物事を日々繼續的になし一時一刻其立方針に向ひ怠ら
ず進行せんとするにあり、社會は活物なり其動いて止まざる時代の變化
に遅れず同化せんと欲せば即ち繼續的修養を積むを以て第一と爲す、如
何に永く教育に従事することも修養を積まざれば現實活社會より落伍す
るや必せり而して其繼續的修養を實行するには忍耐勤勉至誠を以てす
此の三者を具備して事に當る即ち誤り無し

宜なり君が嘖々の令名特に今回本縣知事より普通教育の優良なる模範校
長として表賞され、又其校は全日二部教授の成績優良を表賞さる、一校同時
に二者の表賞を受く蓋し異數なり、趣味として謠曲を好み又常に感あれば
之を國風に現はす左記は其近詠にして又君の人物を偲ぶに足らむ

汲む人はよしやなくとも谷川の清き流れを心とはせむ

眞心を持ちて世に立つ人にこそかたきと思ふ人なかりけれ

己が身を足らぬ思ひのある時は誠心に問ひて働け



平野尋常高等小學校長

筒井 八郎君

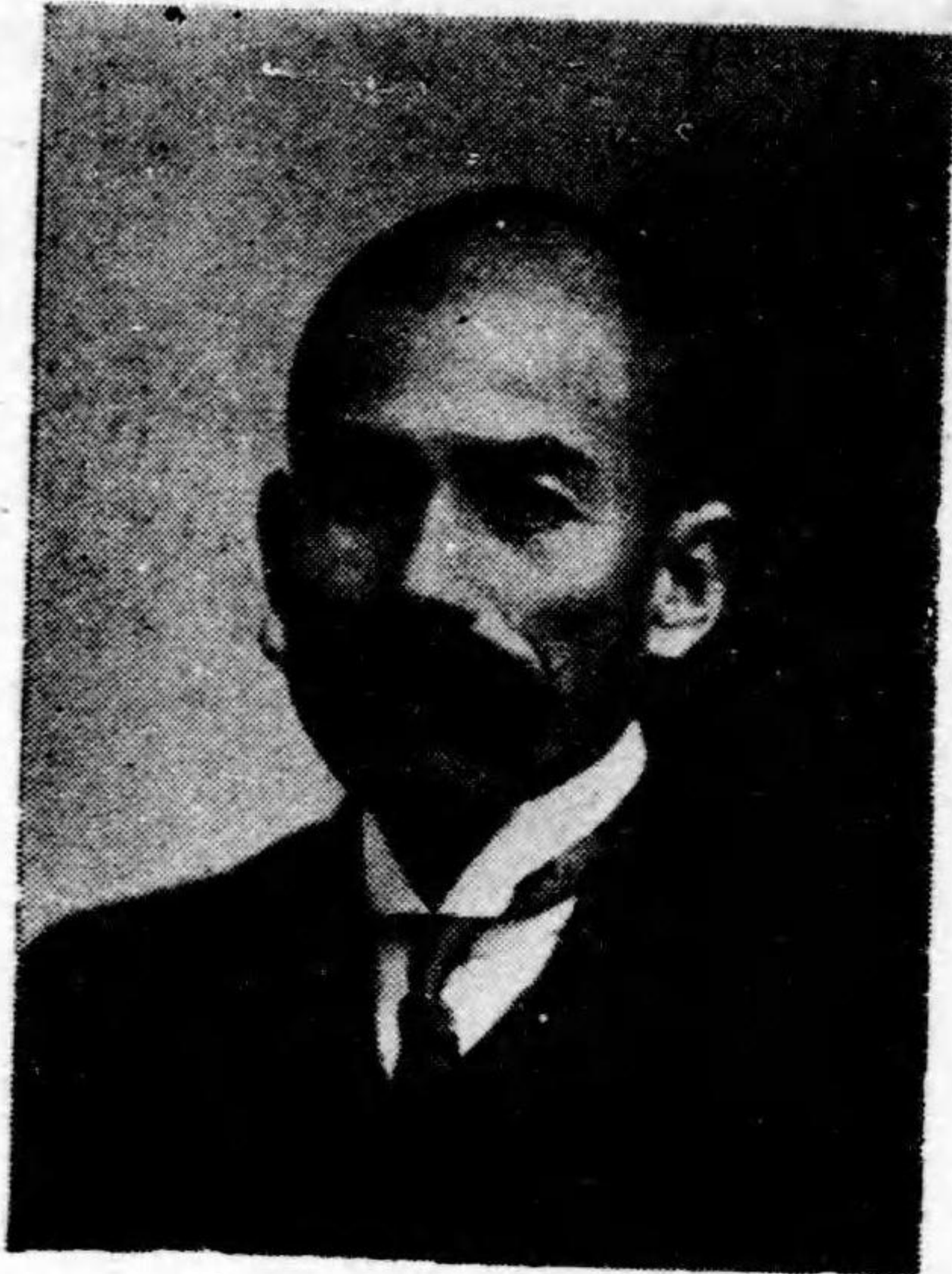
君は、三重縣出身にして明治十七年同縣師範學校を卒業し爾來十餘年間同
縣各小學校に奉職し令名嘖々たりしが、明治二十九年更に近縣初等教育の
比較研究を志し京都府、大阪府等に數ヶ年勤務せり、吾が兵庫縣に轉じ本郡
に奉職せしは、明治四十年十一月大久保尋常高等小學校に始まり昨年十月
明石町第三小學校長に榮轉し更に今回平野村長の懇請に依り同村尋常高
等小學校長に榮轉せり、君年齒既に五十才を越へ教鞭を採ること亦將に三
十年而かも進取的向上の修養を怠らず、孜孜として初等教育に心身を捧ぐ
特に其性極めて温厚圓滿注意周到なるを以て殆ど理想的教育家と云ふ可し



垂水尋常高等小學校長

村山 辨次君

君は、姫路藩士なり、明治三十二年同地師範學校を卒業し同地高等小學校訓導に任せられ、三十九年現任垂水尋常高等小學校訓導兼校長に榮轉し來り同時に同校併置の裁縫學校長をも兼任して今日に至れり、年齒漸く三十七才而かも受くる處の俸給額は實に郡下第一等なり、俸給の高下必ずしも其人の眞價を現す者にあらざるも、而かも君の眞價は今日の優遇も尙其不足を感ずる者なり、君が最近全日二部教授の研究に勉め殆んど其範を全國に示さむ程の成績は今回遂に其筋の認むる處と爲り表賞せられたるが如き誠意に遇然にあらざるなり、更に其人格亦範を村民に示せり



明石尋常小學校長

小野 重雄君

君は、明石の士なり、師範學校卒業後始め本郡に奉職し、中途一時他郡に轉せしも四十年再び本郡に復郷して明石町第三小學校長と爲り、昨年高木校長の轉任、後現職に榮轉せり、曾て三十七八年も一度同校訓導と爲り、當時校中の新進花形として最も異彩を放てり、君は、其兒童教育の方針として最も精神的な人格訓練に重きを置き、自身亦實踐躬行して其範を示せり、君が第三小學校長たるに及び、爾來毎年義士討入紀念日をトし、義士會を催ふし、父兄其他一般有志を集め有益なる講話を試みるが如き、明石町民に對する社會教育者として眞に特筆すべき美譽と云ふ可きなり

明石第一小學校長

黒石周次郎君

君は市内小學校長中の老功者なり即ち明治十八年以來今日に至るまで孜孜として初等教育の爲め一心を傾注せり二十二年志を決し師範學校に入學せしも二十五年二豎に冒かされ中途廢學の止む無きに至れり而かも尙當初の教育家たらむとする志は確固不移三十五年遂に檢定試験に合格し小學校本科正教員の免狀を得て其後玉津尋常高等小學校長たりしが三十八年つ時の第一小學校長に榮轉せり君兒童の訓練に際しては最も其の品性の陶冶に勉め又形式教育を排せり本務の傍郡教育會の幹事として盡す處多し



明石第二小學校長

石原正憲君

君は岡山縣の出身なり二十九年乙種檢定試験に依り小學校本科正教員の免許狀を得三十二年東京府京都府にて同じく檢定

試験に合格せり本縣に職を奉じ教育家と爲りしは明治二十九年に起り三十四年迄縣下各郡に勤務中三十四年京都府に轉じ四十年に至るまで奉職したるが四十年五月再び本縣に轉じ今の第二小學校長に聘せられ以て今日に及べり以上は君が表面に於ける經歷の概要なり而かも君は其實力に於て素養深遠小學校教員中稀に見る處なり従つて識見高く第二國民教養の上父兄の信賴最も厚きこと偶然にあらざるなり



明石第四小學校長

藤尾 耕助君

君は、本郡の人三十三年御影師範學校を卒業し當初明石高等小學校に就職、三十七年上脇尋常高等小學校長に榮轉し、三十九年更に明石女子師範學校附屬小學校訓導に轉じ、四十二年町立第四小學校長に榮轉今日に至れり、君が最も得意とする處に教授訓緣にして、従つて其成績の佳良なること常に群を抜けり、人物亦温良恭謙能人を化するの徳あり本縣當局者獎學規定に基き本年三月君の管理する小學校の成績優良なることを表賞せり、以て其全般を窺ひ知る可きなり



林崎第一小學校長

松林 壯吉君

君は郡下小學校長中最も新進の壯年者なり、即ち明治十八年の出生にして未だ三十才に至らず而して君が御影師範を卒業せしは四十年にして君が今日の材たる可きは學力操行共に優等を占め全校生の模範者たりしと云へり、卒業後本郡に聘せられ始め垂水校に暫く教鞭を執りしも間も無く現在の林崎第一校に轉じ、今日に至れるが偶々昨年十月野澤校長大久保校長に榮轉するに至り君は異數の拔適を得て其後を襲ひ校長と爲り最も將來ある新進第一の人物として期待さる、人と接する快活、些の城壁を置かず趣好としては薩摩琵琶位を愛好す

林崎第二小學校長

茶 谷 久 吉 君



君は、林崎村の出身なり、明治二十四年始めて林崎第二小學校に教鞭を採りてより二十餘年間一日の如く終始同校の爲め身を捧ずる者蓋し稀なり、唯二十六年一時一度藤江校に輸せしも三十三年再び訓導兼校長として迎へられ三十六年には併置せる裁縫學校長をも兼ねるに至れり、君は斯の如く多年一日の如く殆んど献身的に郷黨の教養に力を注ぎたる結果は空しからず、其成績良好にして村内の父兄の信賴厚く特に校庭の園藝實習、手工科の麥稈さなど等實業教育の成績等特筆すべく十分の價值ありと云ふ可きなり

(118)



大久保尋高小學校長

野 澤 實 之 助 君

君は、明石町當津の出身にして三十六年師範學校を卒業せり、卒業後神崎、明石、垂水等の各小學校に奉職し四十年三月林崎第一尋常高等小學校長招聘さる、當時同村は最も難治にて殊に小學校教育の如きは一般に好學心なく非常の困難なりしを君は渾身の努力を注ぎ指導教養せし結果最近郡内に於て却つて其優良を推稱せらるゝに至れり、昨年十月筒井校長の後を襲ひ現職に拔適さる、蓋し大久保村は林崎村と全々趣を異にし寧ろ一般に形式文明に走れる傾きあるだけ夫れだけ君が經營に對する苦心も多かるべし而かも難きだけそれだけ前途の興味多しフレ！

(119)

明石稅務署長

今 木 健 君

君は和歌山縣の出身なり、始め大藏省主計局に職を奉じ四十四年九月現職に抜適さる、君は斯の如く既往の半生は殆んど中央本省にありて内部の主計事務に映掌したる結果其豫算、決算等に關する事の得意にして且つ非常なる特殊の手腕を有するも地方徵稅の實務に従事せるは今回が始めにて比較的經驗少き方なり、特に君は名聞を需めず、恬として世評の外に超然たる故多少收斂の批難なき能はざるも君個性の人格は極めて常識に富み且つ素養深きを以て自から世俗と相容れざる者多きは固より當然の勢にして君の如く羈氣實力を兼ねたるは官人中稀に見る處なり

(120)



辯護士特許辯理士

村 田 泰 輔 君

君は京都の人夙に東都に遊學し三十一年判檢事試験に合格し三十二年金澤地方裁判所に奉職以來、福井、岐阜の各地方裁判所管區の裁判所に判事の職を勤め四十三年八幡區裁判所監督判事勤務中病氣の爲め辭職し一時郷里に歸臥せしも四十四年の暮れ明石町に轉じて今の居をトせり、爾來傍ら辯護士の業務を開始し更に特許辯理士をも兼ねて只管親切誠意を以て民衆の便利を計るを樂しみとせり、明石區裁判所廢止後も本居は依然當地に神戸楠町に出張所を設く、君天性温厚慈父の如く見るから理想的司直の人なり、居常閑あれば漢詩の推敲を唯一の樂みとせり

(121)



元 郡 長

山 田 齋 君

君は、明石藩士なり、維新後明治政府に出使し始め警察官たり、其後累進して郡長に抜適され郡下數郡に職を奉じ治績頗る顯はれたりしも中途病の爲め職を廢するの止む無きに至れり、君は性來の酒豪にして病源も主として茲に因由せるは君自身も認めて異議なき處なり、さるにても酒は百藥の長にして亦身体の毒なる哉、飲酒家鑑みよ

君今閑地にあり、風月を友とし讀書を友とし殊に最近最も佛典に心を傾け居れり、唯病因源を爲して耳稍々遠き故自から社交を去り前途尙爲す有るの身を空しく閑地に置く惜しむ可きなり

郡 學 視

大 村 駒 治 君

形式的教育が百害ありて一利無きは識者を俟たざる定論なり、而かも人類亦感情の動物たるを免れざる以上人各多少の功名心あり、其間著しく外面に現はれ且つ自から其功名を標榜する者と陰忍心中に期する者あるこの差なれども其結果が社會一般の風教道德上に及ぼす事の大なる點に至りては決して百歩と千歩との差のみに止まらざるなり、特に身親しく國民教育の重任にある初等教育家の此の心事如何は更に其影響する處甚大なる可きは論を俟たざるなり、此の點に於て明石郡が這般郡視學として君を迎へ得たるは明石否國家百年の爲め喜びに堪へざるなり

君は、本縣師範學校を卒業し、縣下各郡に教鞭を採り最近前任地佐用郡に郡視學たり、偶本郡視學に缺員を生じ襲ふて其任に就く、吾輩は漫りに且つ敢

て前任者を指議する者にあらずと雖も、全日二部教授の如き其聲名と名實相伴ふ者ありや多少疑無きを得ざるなり、君は此の點に於て厭くまで實踐教育主義の人なり、勿論教育家には其應用の際に於ては社會の何人よりもより多く口を要す、然れども其要する場合は教授と訓練に應用する者にして決して自家廣告に用ふべき者にあらず、君は此の種の自家廣告及び揭示觀覽用の統計表式の誠意なき形式教育を惡むこと虎よりも甚しと云へば君が教育家としての一面に於ける性格をも略推知することを得べし、今の明石に極めて必要なる者は健實なる精神の陶冶なり、皮相的文明を學ぶ點は敢て他に遜色無きも國民教育の眞精神を解する者は誠に寂々たるの感無きにあらず、吾輩は切に君の奮勵と努力に期待する處多きを告白する者なり



明石電燈株式會社支配人

古 谷 虎 雄 君

君が實業界に於ける膽畧手腕は確に天稟なり、君が幼少孤獨の不幸なる境遇より百折不撓奮然身を提して起ち遂に今日の位置を得るに至れる者決して君が尋常凡様の人にあらざる事を證し得べし

明石電燈株式會社創業當時に於ける明石人一般の智識程度が從來の行燈を以て最上の燈明なりと信せし位なりし事は、別項所載の或る人のに條下も一言之を附言せり、然り當時の明石人士は實に總ての智識に於て大概より以上甚しきものありき、而して君は獨り此の間に處し能く豫め時勢の推移と進運とを計り電燈會社創業を思ひ立ち苦心慘憺、百方東西に奔走して

之を先輩に説き漸く數人を説得し賛意を表せしむるに至れり之に力を得たる君は更に獅子奮進の勇氣を以て事業の創立に當り最初漸く兎も角小資本の下に小規模の會社を創立し君が理想の蛹を作れり茲に於て君は苦心經營の任に當り創業當時萬事不如意の中に能く顧客と株主に其手腕を認識せしめたる結果は第二期擴張と爲り更に第三期の擴張をも行はんとするに至り遂に今日の如く現に明石第一の大會社と爲り其營業成績も一期八朱の配當を爲すの盛況を呈せり君は此の他明石に於ける各種の會社創業には直接或は間接に干與せざる者殆んど稀なり君は又傍ら常に町政の改善に心を傾け高島町長時代には其幕僚と爲りて奮闘し這般町會議員に擧げらる時に君を貶する者あるも世評の外に超然として度量大山の如く縦横の機畧は唯益々君の人物を大ならしむのみ



明石驛長

中島護一郎君

君は岡山の人二十六年山陽鐵道時代に從業以來終始交通運輸の業に力を盡し昨年九月一日厚狹より榮轉し來つて多年一日の如く精勤せり明石驛が旅客を主とせるは論を俟たずと雖も貨物も之を忽にすべからざる事亦勿論なり而かも君は着任以來最も意を此の點に傾注し從來海送を主とせし本郡唯一の物産米は悉く昨秋より汽車運輸に取れり之れ所謂新記録にして同時に君の殊功なり君は驛員の統御にも常に不言實行誠意勤勉自ら範を示し一日上下平均百回以上發着列車を迎へ傍運送店の改善に力を致す君の如き職務忠實の模範的人物を迎へ得たるは確に明石人の幸なり

西新町醫師

菅原 絢男君



君は明石の人夙に醫學を大阪に學び業成り歸明して開業す君は内科と小兒科は最も得意とせしが患者の信頼も亦君の一身

に集中し開業當時は殆んど門前市を爲すの盛況なりき而かも謙讓深き君は敢て自から名聞を賣らず唯患者に對し親切なる施療を唯一とせしを以て今尙其根底牢固たる者ある怪しむに足らざるなり

君は、獨り業務に忠實熱心なるのみならず、其天性圓滿玲瓏珠の如き者あるを以て些の主角を認めず左右の町民等しく君を敬慕せり、業務の傍風流を好み、園基、謠曲、繪畫等特に愛好する處なり

耳鼻咽喉科専門醫

岡田 謙次郎君

君は、但馬の人夙に東都に出で醫業を修め、特に耳鼻咽喉科の大家岡田博士に就て斯學の蘊奥を極め業成りて一旦故山に錦を飾りて歸り、其後居を明石に卜し開業して今日に至れり、君が其専門の施術を爲す技倆眞に神技に幾庶く而かも施術の親切なること到れり、盡せり若し醫家にして其天職を解せず、富者に叩頭百拜して醜を盡し貧者に對すれば宛然關知せざる者の如くば實に斯界の公敵なり、現に帝國最高の學府に入り其術を修めたる者大なる門戸を構へ山を張りながら患者の相貌を見て門前に拒否する不埒の者ありと聽き尠からず驚愕せり、此の輩宜しく君に學び改むる處ありて可なり



陸軍歩兵中尉

鈴木定君

君は、夙に陸軍教導團に學び卒業後第五師團に入隊、其後再び教導團の教官に選拔せられたるも同團廢止後又再び第五師團附を命せられ累進して陸軍中尉に昇り現に其職にあり、其間三十三年北清事件に従軍し、三十七八年戰役に出征して殊勳あり功五級金鵄勳章を賜はる、明石出身の青年士官中此の特典に預かる者實に君一人なり、凱旋後も再度滿洲守備の任に當り最近まで同地各方面に駐劄せり、君は天性軍人向にて何科にも通せざる中にも調馬の妙は殆んど神に入り如何なる荒馬と雖も一度君の手に附けば柔順猫の如しと云ふ以て其技を知る可きなり



陸軍歩兵中尉

木下庸太郎君

君は、中學卒業後一年志願兵として入隊し少尉に任官後三十七八年戰役あり出征従軍して殊勳を顯はし功五級金鵄勳章を賜はる官亦昇進して現に中尉たり、之れ君が既往に於ける公人的生涯の概要なり、然り君は軍人なりし故を以て今尙其身軍籍の一員なり、其人の膝下に於て其人と關聯して政治を語る或は見る人怪しまんもそは筆者の意志にして而かも君より君の嚴父を主とし其餘沫を君に及ぼす次第なれば幸に之を諒せよ、大久保村は現下本郡に於ける政黨的政治の中心地點にして君の嚴父甚三郎君は實に此の主人公なり、絶對的過半数を有する大政黨として其勢を誇る政友會も

本縣に於ては始終振はず常に國民黨の爲めに壓迫され居るは今尙然るなり此の時に際し君は常に本縣政友會の爲めに其氣を吐き多數黨をして宛然一敵國の觀あらしむ即ち所屬黨の代議士を出し自身亦縣會議員として常に少數黨の代表者たりしなり、偶々這般の政變に依り政友會一派の無節操横暴を憤慨し敢然同志と共に脱會し本部をして顔色を失せしめたる如き政治的公人として今の世には眞個見上げたる者と云ふべく而して本郡に於ける同派の行動は擧げて君の一令に聞く處、以て君一面の德望想見し得べし而して令息庸太郎君其天資亦凡ならず、今物産會社の役員として終日營々業務を擔當し居るも君の志は決して茲にあらざる可きを信せんと欲する者なり、即ち爾後政界は卿等青年の奮起に俟たざる限りは斷じて革新の光を認むること能はざる以上君は必ずや嚴父の志を繼ぎ將來に於ける本郡の覇者たるべきを信じて疑はざるなり



郡書記陸軍歩兵少尉

木岡重治君

現時の明石に鑑みて將來の明石に切實に必要なを感ずるのは新人物の出現である吾輩の稱して新人物と云ふのは決して昨今時代の産物たる所謂新らしき人なりと云ふ意味では無い、實は生々たる有爲なる實用的健實なる新進人物をと云ふのである、而かも如何に新進有爲の人物でも個人の發作のみに力を注いで敢て社會公共の事に心を傾け盡さぬ者は今日以後の時世には益々不向きな人物で言はゞ社會の公敵として宜しく擯斥すべきである、現に吾輩の觀察する處に依ると現下の明石でも個々別々其人毎に就て委曲に其人物を分解して見ると隨分立派な智識もあり、操行も正しい人

が無いでも無いが、さて社會的に見解を下して其の人の行爲を檢査して見ると殆んど鏗三文の價値も無い人が多いのである。此の現象にして改まるの時なくんば明石は永久に他と平行して進運に伴ふ事の出來ぬのみでなく、今よりも一層落伍の悲境に陥る事は請合である。此の見地から物色して吾輩は現在の明石から將來に期待し得べき所謂新進有爲の人物として僅に指を六人に屈した。而して君は其の中の一人である。君は三十八年當地の縣立農學校を卒業した。そして其卒業當時は僅に十八才の少年であつた。以て如何に君が幼少の折から群を抜いた秀才であつたか、分る。卒業後暫く大久保小學校に教鞭を採つた。其後徵兵適齡に際し一年志願兵に採用され十九聯隊に入隊一年の後又首尾克く少尉に任官された。除隊後四十四年の五月から郡書記を拜命して今日に至つて居る。吾輩は將來に於て明石出身の有望なる官人第一人として推稱する。



陸軍騎兵少尉

長谷川治太郎君

君は、神戸商業學校の出身なり、卒業後一年志願兵として姫路師團に入隊し除隊後少尉に任官され目下只管家業に勉勵するの傍明石町の在郷軍人會の役員として其實務を映掌せり、軍隊に於ける其隊の行動に關する最高命令者が固より隊長たる事は今更言を要せざるも而かも豫め其の行動に關する豫定計畫を定め該隊長をして命令せしむる迄の筋書は之を參謀或は副官に俟たざるべからず、而して其成績の優良、不良は一に此の種計畫の良否如何に依るは獨り實戰裡に限らず悉く然るなり、今之を明石町在郷軍人會に見るも等しく此の理圏外に逸せず整然能く其範を示す者伏屋會長部

下の役員を信頼して參謀たらしめ副官たらしめ擧げて其手腕に委するを以て上下一致一令の下一人の動くが如ければなり、明石在郷軍人會は會長伏屋大尉の弘量海の如きに加へ、副會長平野主計の細心微密些の遺漏なきあり更に君の如き忠實熱心なる役員あるありて實際に活動す今日の盛況偶然にあらざるなり

君は更に明石町に於ける新進人物として吾輩は木岡君を官人の第一人に推稱したる意味に於て將來明石實業界の第一人たる事を推稱するに躊躇せざるなり、明石町が多少商業上樞要の位置にありながら今日の如き不振を來せる所以は其商畧と正直とを解せざればなり、君の如きは専門的新教育を受けたる上更に規律的人格陶冶を受けたる有爲の新人物は正に不振の基因たる舊弊を一掃すべき責任懸りて双肩にある覺悟を要すべし、家業砂糖の取引明石に冠たり趣味は琵琶を愛好せり



陸軍歩兵少尉

山本福太郎君

君は神戸商業學校の出身なり、卒業後一年志願兵として入隊し、少尉に任官さる、歸休後實業家を志し第一銀行に入り、昨年迄朝鮮

鮮支店に勤務し、目下歸明中なり

君も明石に於ける有爲の新進人物として深將來に囑望せらる、希くば此の衆人の期待に背かず身を捧げて明石町改善の爲め盡す處あらむ事筆者亦希望して止まざるなり



陸軍歩兵少尉

平野 末藏君

君は、明石の成功兒平野林藏翁の二男にして平野英吉君の愛弟なり、君亦神戸商業學校に學び卒業後一年志願兵として姫路に入隊し歩兵少尉に任せらる、目下既に分家して樽屋町に居をトし獨立自營の實業家たるべく奮闘せり、蓋し君の自營的精神は先天的なるに加へて近世式の専門的教育は益々君の人物をして第二の天性たらしめし所以なるべし、明石の將來には無爲なる千人の人よりも有爲の一人を要望す、筆者は益々君の健闘を望み以て新しき第二の林藏翁たらむことを祈る



明石實業銀行支配人

林 鉉 藏君

君は、當藩士にして始め教育家たらむ事を志し、乙種檢定試験に依り小學校本科正教員の免許狀を得、退職當時町立第二小學校長たり、掲載せる小照は實に當時の紀念撮影に爲る者なり、其後志を實業に轉じ入つて現職に就き明石金融界の一方に雄飛せり、其間又町選良と爲りて一期間其任に當り能く正當の判斷をなし議案の採擇を誤まらず、爲めに這般の改選に際しても選舉民の信頼最も深く再選せんと欲し立候補者たらん事を慫慂すること再三なりしも君亦現下の状態に就き深く考ふる處あり高踏勇退、斷然其厚意を謝絶し只管業務に勉勵せり、君尙春秋に富む想ふに今日の勇退は必ずや遠く期する處あるべし、自重せよ



濱光明寺住職

大橋 瑞宏君

君は明石在居靜侶二十餘名中の最年壯者なり昔者殺生禁制の僧侶も四民平等の明治以後に於ては軍國の任務に就かざるべからず君が靜侶の身にありながら上欄の姿は即ち當時三年間服役したる時の紀念撮影なり而かも三十七八年戰役に從軍せしも自から劍を把つて親しく殺人の衝に當らず負傷者及び病者の救護に當りしは佛弟子の因縁なるべし同寺は淨土宗智恩院の末寺にして遠く三百年前の建立にかゝり明石寺院中の雄なり曾て明治十八年長くも先帝陛下山陽巡幸の節龍駕を駐めさせられたる所なり君は誠意法の擁護に努め壇徒亦君に信賴する處頗る深し



岩屋神社々司

井上 政連君

君の家柄代々岩屋神社附の歴たる神官にして君も當初學を志し笈を負ふて處々に遊學せしも先考逝きて其職を襲がざるべからざる場合となり二十八年歸つて其職を襲ひ社掌を拜命す三十三年社司に昇進す

岩屋神社は人も知る如く伊弉諸尊伊弉册尊大日靈貴尊月讀尊蛭子尊素盞鳴尊の六尊を奉祈し其縁起は遠く一千數百年の往古人皇十三代成務天皇の御宇淡路岩屋より觀請せしものにて當時願主二人及水主四人淡路島に渡り神靈を船に遷し奉りて歸明せんとしたるに八百潮早くして當濱に着船すること能はず止むを得ず一夜を赤石の傍に碇泊し翌日順潮を待つて

此の濱に着き今の處に遷宮したるなり、勸請の際六神を六艘の船に遷座し明石より迎船二艘、淡路より送船一艘、都合九艘なりしより、其後毎年七月の例祭名越菟ひの時は勸請當時の例に倣ひ神船九艘、淡路に渡りしが、中古之を廢し松の祭と稱し東浦まで船を漕出すこととなり居りしが、今は唯此の風習に則りて神社前より大藏谷まで小船九艘を浮べ漁夫水泳して之に従ふこととなり居れり、此の他大祭は例年十月十三日にして此の兩祭は何れも明石町年中行事の中最も賑かなる者にて、阪神地方の商人數日に亘り市を開く程なり、明治十七年君が先代の時規模を擴大し縣社に昇格す、君就職後は唯一回御屋根替へせしのみなり、君居常信徒の敬神の美風養成に心を傾け自から卒先して躬行實踐其範を示す爲め信徒の信賴最も篤し、常に國學の修養に努め、時に圍碁、打網等を試み氣を養ふ外趣味なし



月照寺住職

加藤 寛 瑞君

人丸山は現時の明石に於けるブライトの表象なり、當初彼の秀逸せる勝地をトして我國千古の歌聖を奉祈せる偉人の眞精神は決して今日に於けるが如き形而下的の俗惡愚衆に躡躑せしむる可き意志にあらざりし事は蓋し如何なる愚衆と雖も異議なかるべし、然れども明治も大正と移れる世の中、女禁制と聞きつる弘法大師の靈地高野山は墮落男女の隠れ場所と變れる今日此頃斯の如き融通の利かぬ仙人地味たる議論こそ却つて野暴の骨頂と多くの明石人は笑ひ給ふ可し

君は、此の點に於て大なる明石の恩人なり、世人も知る如く月照寺は遠く弘

仁二年弘法大師の開基に成り安阿彌の作釋迦如來を本尊に祭り其他數多の寺寶を藏する曹洞宗にして維新以前迄は住職柿本神社の別當を兼ね寺の内容も裕なりしが維新後の政變につれ從來の如く思はしからず多くの佛寺は多少の打撃を蒙らざる無く同寺の如きも著しく其影響を受けたる一つに居り君が任を受け趣き來れる時は頽廢殆んど其極に達し炊事場の如きも雨の時は傘をかざして漸く其の日を綾く在様なりしを君住して以來勤勉貯蓄具さに困苦を忍び一面には佛弟子の本分を格守し壇徒に對する處ありたる結果遂に再三の修繕を加へ今日の觀に復し柿本神社の繁盛と共に再び人丸山上往時の偉觀を呈するに至れる者確に君の殊功を記録せざるべからず獨り斯る物質上の功績のみならず君は再應惡弟子の爲め腦まされし事ありしも何時も之を公にせず内事に訓戒して徳化するを常とせり筆者は特に此の精神を今日に於て偉なりとす

郡會議長

石本 文藏君

町會議員

石本 元三郎君

大藏谷に於ける石本君父子の陰然たる勢力は蓋し萬人の認むる處なり而して此の牢たる勢力の依つて來る處抑々何に基因するか誠に吾輩をして吾輩の觀察し得たる處を赤裸々々語らしめよ蓋し君の家柄は世々の藩士にして代々先天的に郷黨の敬仰を受け事の起る毎に君等の指導示教を受けつゝありし者ならん此の遺風は今尙部落の一部に存在し維新前の舊習慣を格守する點に於て大藏谷は確に明石町中の一獨立王國の觀あり故を以て善惡共に相談も殆んど相一致し善に就かば非常の上結果を得惡に傾

けば又頗る困難を感ずること當然の結果なり而かも現下の大藏谷は幸にして君等父子のあるあり其指導宜しき得明石町各部落中最も統一的状態を保てり

父文藏君は、近く現町長前の町長に擧げられ紛亂せる高島町長時代の跡を繼ぎ比較的無難に其任期を務め勇退後更に郡會議員に選ばれ互選の結果は更に郡會議長に擧げられ現に其職にあり議場の整理其他に就き令名高きは世人の知る處なり

息元三郎君亦這般の町會議員改選に際し二級より大多數を以て選舉され當選せり而かも興望に依り當選せる君は彼の唯員に供はる名分議員にあらずして實力ある眞正議員とし議場に重せられたるは新町會二三の議席に於て明に證明せられ從來の大藏谷議員は賛成議員の名のみなりしを今は君の賛否如何に依り議場の大勢を決するに至れり家業として牛乳採取販賣業を營み其名又顯はる



町會議員

吉野治兵衛君

君は、現町會議員中の年長者にして且つ最も穩健公正の主張を有する人なり而かも最年長者の故を以て人の如く耄碌せず思想亦遍せず寧ろ年少氣銳の壯者間に相伍して議論を上下し決して遜色無き處凡様者流の頭腦と相異なるを知り得べし三十名の町會議員中君と其經歷に於て又年齢に於て殆んど相伯仲する者を需めば先づ武藤信重君なるべし君は曾て町村制實施以前に於て戸長たりしことあり後者は數年前に一度町長の椅子を占めたることありたるが其治績に於て特筆記録すべき者無きは等しく同一なりと雖も君の經跡には人格上の批難寸分も聞かざるに對し後者が常に醜

聲を絶たざるは、即ち這般の改選に際しても君は易々と當選を得たるに對し、後者が開票前まで確に六票の得票ありと聲言したるに似ず開票の結果は僅に四票にて漸く年長者の故を以てお情けに當選し却つて耻の上塗りしたるかの感ありしに比較せば、君が合名終始變り無き處實に雲泥の差ありと云ふべし之れ確に君の一面に於ける公正ある人格の結果にして、今の町會には生きてきたる典例として是非無くて叶はぬ人物なり、此の點に於て君は亦明石町會の指導者と云ふも敢て過賞にあらざるなり、現に最近演ぜられたる不正投票に關連する町會の議場に於ける君の批正的行動は具眼者の賞讃措かざりし處にして僅に明石町會の面目を保維持たりし事も亦確に君の功勞なり、其他實業家として實業銀行の頭取たりし事あり斯の如く君は殆んど其一生志を町政の上に注ぎ献身的に傾け盡せし事明石沿革史に登載の價值十分なり



郡會議員、町會議員

藤岡音吉君

君は、明石町會の武藤金吉君なり、帝國議會に於ける武藤金吉君は新聞社の見聞録子にムト金の假名を附せられ多少嘲笑の標的なきにあらずと雖も武藤金吉君の個性を覗ふ時は彼は天性至つて好人物にして其選舉民に對する親切幹旋の如き三百八十一人の議員中實に第一の人たることは今や殆んど萬人の認めて異論なき處なり、従つて議場に於ける行動に對しては反對派の新聞筆を盡して惡罵嘲笑するも君の實力には聊かも影響する處なく却つて日一日と其勢力加はり來り今は殆んど政友會の多數者中に於て益々日の出の勢なり、之れ一は君の背後に白頭大臣のあるあるに依ると

雖も君の實力と且つ其職務に忠實なる勤勉の美德伴はずんば如何で今日の勢力を得んや

君は吾輩が其例を武藤君に採りたるを或は不倫となし且つ不當なりと言はんも計り難けれど吾輩は決して君を惡意の武藤君に比せしにあらざして善意の武藤君に比せるなり即ち職務に忠實なる勤勉の美德なりと稱せし美點を君に比し以て君を稱せんと欲する所以なり有体に言ふ君は敢て深遠なる學識の素養ありと云ふにあらざるも町會三十の議員中其議案に對する研究の熱心なるも且つ審議に熱心なる事君の如きは蓋し第一人なり吾輩は君の政見如何を論せざるも其町政に對する熱心と親切とは十分に認むる事を得たり彼の唯町會議員の肩書のみを得て以て自己の私利に益する處あらむとする名利議員は正しく君の熱心に對し慚死すべきなり君は亦一面理財の手腕を有す

町會議員

柳瀬文藏君

君は町會の花形役者にして殆んど毀譽相半するの人なり凡そ物体あり表面あれば必ず裏面存す人を略る者亦其立脚地に依りて相異なるは自然の數なり之れ即ち人物觀察毀譽褒貶の起る所以なり君を貶する者は曰く彼は常に優遊爲すこと無く唯町會に席を列し所謂玉泥黨の牛耳を把り其間に處して不正の私利を畫する者なりと更に君を褒譽する者は曰く明石町會椅子を列ぬること三十頭椅子之に伴ふ而かも君は其中にありて最年少者ながら能く町會議場幾多の懸案を左右し拱手一定の業を勉めずと雖其間絶へて不正の聲を聞かず善く中流の面目を保持する處以て彼の平凡ならざるを窺知するに足るべしと蓋し此の觀察見者の立脚地に依りて表裏の差異ある所以なり

編者は、平素抱懐する主義が君の明石町に於て行動し來れる政見と相近きを想ひ屬々訪ふて語れり、而して其間君に對する世評の真相を窺はん事も陰に相期せり、議場に於ける君の實力に對する評語は敵味方共に一致す即ち問題の巨細如何を問はず該案最後の斷定は君の裁斷如何に依りて大勢決する底の概あること夫れなり、編者亦時に議場の一隅より町會を一瞥し評者の言誤り無きを確め得たり、然らば君の行爲と人格に對する世評如何と云ふに編者は君の爲め唯一言其妄なるを斷すべし何故ならば君が果して裏面に於て需める弱者の位置にあらば如何で公席に於て彼の如き公明正大なる言議を敢て爲し得んや、之れ即ち需めざる者は強しの位地ありて君に衷心何等やましき點無きを證する者なり、新人物少き明石には鬼才君の如き、勇往意氣ある君の如き實に無くてならぬ人物なり



町會議員

杉本松之助君

君は始め教育家として多年兒童育英の任に當たり居りしも後止めて閑地に就き讀書三昧に優遊し、或は町政其他部落の公共事業に盡す處多かりしが、三月末改選の町會議員選舉に際し二級より推され遂に大多數を以て當選の榮冠を戴けり、料るに今回選出せられたる新議員中には色々雜多の分子ある有りて恐らく何人と雖も、目下の處其真正体を直に看破し得る者は尠かるべし、即ち或者は常に町政の刷新を論じ、改善を計る可く云々し、或者は生産興業の振作を畫す可く議論し、或は何、或は是れと何れも陸上水練に等しき其妙技を語り論ずるも、いざ實戰の曉に到れば何れも一樣に自己一

身の進退さへ迷ふに至り遂には議場に居堪はずなり逃げるが如く隠れ去る者ありたる程なりき

君は、即ち然らず、議場に於てこそ謙遜して敢て漫りに喃喃の語を出さざれども、君が中心に藏する政見主義は博く且つ穩健にして常に同志の敬する處と爲るは世人の知る處なり、現に君が當選後神戸新聞明石郡報子の質問に對し逸早く其發表せし意見當時紛擾せる政局に處するの方便としては最も穩健なる説なりとして殆んど君の所説の如き結果を得て兎も角も一時の解決を見るに到れるが如き以て其反證とすべきなり

君は、又其性極めて温和恭謙なるを以て、敢て先輩に挑まず、而かも後進を輕んせず、寛厚平穩を主義せとり趣味としては圍碁を最も愛好し其技亦凡ならず

三龍圓主人

成定庄兵衛君

君を失ひたる明石町會は確に明石町の損失なり、改選以前の町會に於て君が議場の一席を保ち時に議長を呼んで起立し口を開くや滔々として奔出する説謬の議論理整然些の駄辨を交せず遂に對者をして首肯せしむる處宛として帝國議會の本堂犬養先生なりき、而かも今回の町會は此の人物を逸す、町會夫れ自身も誠に寂寞の感なき能はざるなり

君が今回の敗因は餘りに樂觀し過ぎたるにあり、更に語を變へて云は、餘りに敵を輕せしが爲めなり、現に當日開票の終結を告ぐるまで君が落選者とは實に味方は勿論敵方と雖も想はざる處なりき、而して最後の結果が愈々落選者と定まるに至り等しく敵味方共に其意外なるに驚き且つ惜しむし所以は、君を議場に失ふ事の遺憾なるを想へばなりき、而かも事後に至り

て言ふも詮なし須らく倦土重來時來らば能く鎧袖一觸直に敵を屠る可きなり且つ君は確に屠り得るの實力ある事は、外來の筆者亦確言して憚りざる處なり

從來樽屋町は、明石町に於ける政治の中心地點なるかの觀ありしは君始め君の同志が始終一致して町政に對する輿論の發現地たるに勉めたる結果なり而して今尙中央政界の派別を認識し公然其主義を標榜して町民に訴へ公明なる争を爲し得る者實に唯君一派の同志のみなり此の點に於て君及び君の同志は明石町に於ける政治教育の實際的指導者として筆者は特に敬意を表する者なり、君は斯の如く政治的人として聞ゆるのみならず傳家の三龍圓は關西關東交通の便開くるに従ひ益々其名著はる



町會議員

伊藤 庄吉君

君は、溫和派の代表的人物なり、町會議員三十人中恐らく君の如き内實共に溫和の人はあらざるべし、君が溫和良平和の人たる事は一見其骨相之を現はせり、樽屋町が比較的總ての思想特に政治的思想の進歩せるに係はらず能く其大を統一し最も平和なるは、君は如き天資の平和的人物其間に伍し盡す處多かればなり、柳瀬君の如き成定君の如き各其條下に言へる如く各容易に人に譲らぬ一癖ある人なり、而かも君を介したる三人は恰も兄弟の如く相許し相親しむ、蓋し君ある限りは樽屋町の將來は永久に平和なるべし、君は家業として砂糖問屋を營み取引高頗る多し



岩岡尋常小學校長

岡部文太郎君

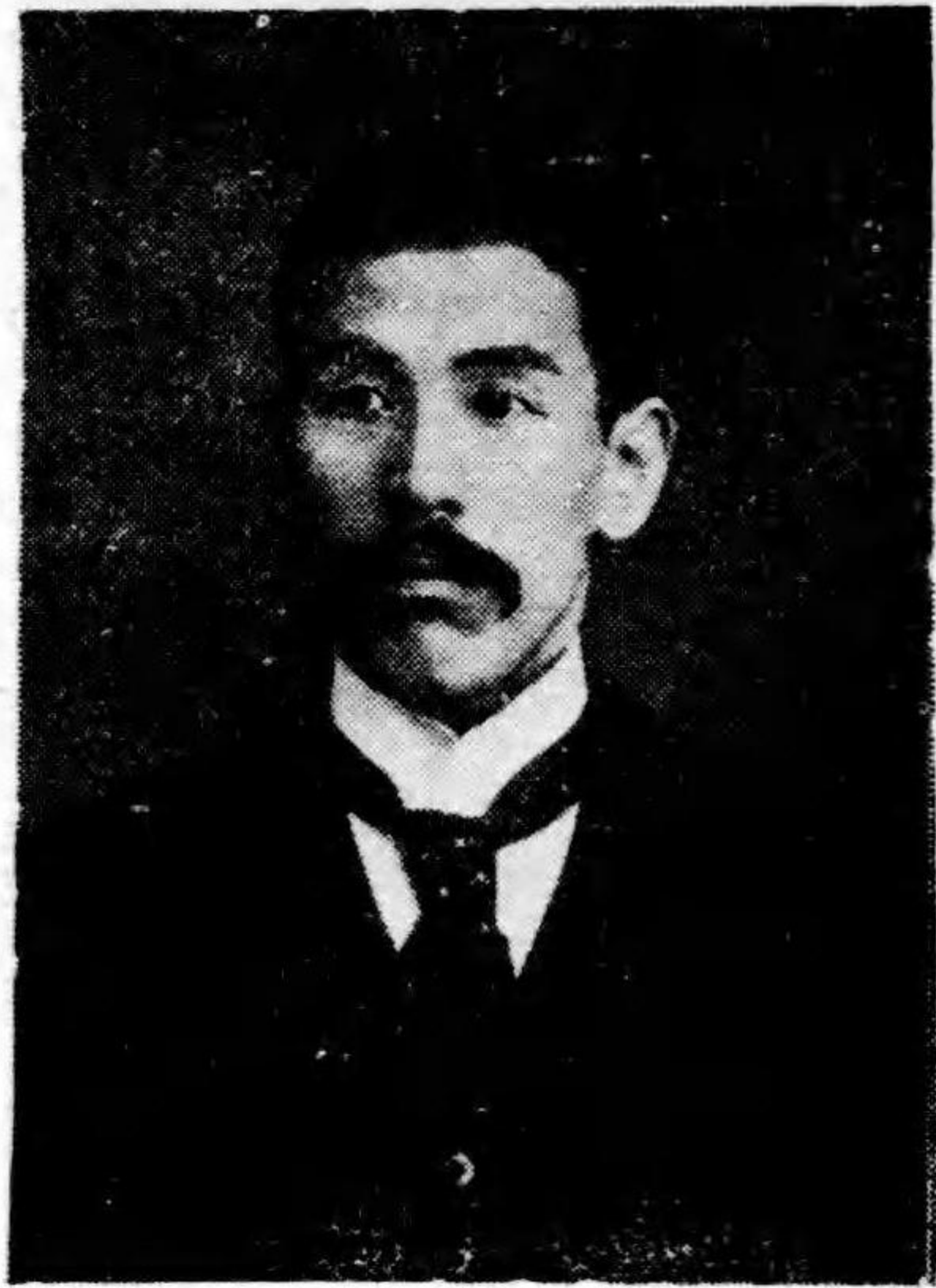
君は郡下神出の人夙に檢定試験に依り本科教員の免許狀を得縣下各地に教鞭を採り四十年四月現職に就き爾來今日に至れり君は實行主義の人なり形式的教育を排し自から躬行實踐して範を生徒に示せり現に其一例として最も著しき者は校庭其他附屬園藝場に於ける各種の試作物に對し耕作播種悉く自から其勞を採り特に肥料の取扱まで親しく自身自から其勞に當れるは他に見る能はざる美風なり故に子弟は勿論父兄其他村民一同信賴し學校の事とし云はゞ決して拒む事なし君は斯くして二個の學校を合併し手工科を加へ益々實際的兒童の養成に心を傾け盡し居れり



玉津尋常小學校長

竹村鐵之助君

君は岡山の人三十六年岡山縣師範學校を卒業し同縣下各小學校に教鞭を採り居りしが四十三年本縣知人の招聘に依り多可郡重春尋常高等小學校長に就職し昨年九月更に本郡に聘せられ現校に榮轉し來れり君は厭くまで形式主義を排し唯々實踐躬行主義の實現に全力を傾注せり其結果形式主義者所謂表面の裝飾品たる諸統計陳列式の先生には或は君の實收主義の訓練成績は之を認むる事能はざる可きも苟も眞の國民教育を解し得る具眼の士は其功績を認むるに躊躇せざるべし君は此主義に依り唯日曜も休日も無く校務に映掌するを唯一の樂しみとせり



驛前齒科専門醫

稻垣 甚藏君

君は、當町戎町の出身なり夙に東都に斯學を研究し、學術技術何れも其濫奥を極む、歸來稻垣家に入つて其跡を繼ぎ目下驛前通りの要地に居をトし開業す、其巧妙なる技術と親切なる施術は常に門前市を成すの盛況なり、趣味として最も謠曲を好み明石に於ける斯道の頭領株なり、吟友會の如き君主とし預かる處多し



内科呼吸器専門醫師

吉田 淳一君

君は神戸の人六年前明石に移り人丸西門下通りに居をトして開業す、君は始め神戸に在り外人に就き語學と醫學を専攻し、内務省醫術開業試験を受け遂に優良の成績を以て合格し免許状を受く、其後鶴崎醫學士の經營せる須磨療病院に勤務し久しく實地の研究を積み、特に内科呼吸器病に妙技を有し、令名斯界に高く現に舞子に出診所を置き博く行はる人物極めて温良篤實なり

陸軍歩兵少尉

興治善次郎君

君は、神戸商業學校の出身にして卒業後一年志願兵に服役し任終へて陸軍少尉に任せられ、新進の意氣に素養を兼ね前途有爲の新人物なるは筆者の蛇足を要せず東本町第一の人物として町民多數の囑望を受く偶然にあらざるなり、兼て在郷軍人會の役員たり専ら斯會の發達に盡す處あり、家業主として明石町に於ける度量衡器の專賣を營み最も健實を以て稱せらる、明石の商界が世運の進轉に従ひ現狀に甘んずべからざるは今更言を俟たず君亦夙に見る處あるべし、而して此の新氣運に伴はんと欲せば更に新銳の氣を要する事も勿論なり、此の意味よりするも君及び君と等しく母校を共にしたる數人の新人物が明石將來の進運に關與する事の至大なるを知るべきなり自重する處あれ

(162)



明石私立圖書館主

每熊小三治君

君は、長崎縣の出身なり始め同縣に於て縣吏となり、後土木課に轉ず二十餘年前本縣に轉じ始め姫路に勤務す、後本郡土木掛りに聘せられ勤績十三年其間郡里道の新鑿設計皆君の手に成る、數年前大患に罹り辭して閑地に就く、辭職後病を養ふこと一ケ年、明石に圖書館の設備なきを以て陰に憂ごなし、奮然身を以て其設立の任に當れり、今日尙其完を成さずと雖も之が爲めに君が苦心慘憺私財を投じ日夜殆んど寢食を忘れる程の熱心なるは世人の知る處なり、天性書畫を愛好し藏する處の名幅亦頗る多し、兼て又文學を好み特に俳句に妙を得、天山の俳號關西舊派の斯界に普く知らる

(163)



溝口 稔君

君は、縣下美囊郡三木の人なり、數年前明石に移りて操觚に従事し、明石民聲の諸新聞に筆を採り、傍ら阪神地方の新聞通信員を兼ね、目下民聲にあり

天性頗る恬膽にして、些の圭角なく、何人の怒りに乗ずるも敢て火を點せず、爲めに對者をして止む無く無爲に終らしむ、而かも酒は食よりも好み、酒間又意表外の滑稽を演じ、座中の人を笑倒せしむる處、社交界の珍なり

故

宮崎官次郎先生

故宮崎先生通稱官次郎、字は賴庸、風鵬、或は伯恭と號す、先考彌十郎氏母は宇野氏より出づ、彌十郎氏亦普通以上の學者にして、當時藩士明命格以上の系圖を戸別に調成して、今に現存す

先生始め伊賀流の兵學を鈴木氏に學びて、其蘊奧を極め、三神眞流の劍法を乘原氏に學び、其皆傳を受け、同氏の死後、繼ぎて全藩に師範たり、更に又鎗術は風傳流の皆傳を得て、之亦師範たり、主命を帯び、江戸へ出府の折、五三の流をも研究せり、始め作事目附より使番席に進み、碌二十五俵二人扶持を食む、後諸術師範たるに至り、本扶持七十石、役行三十石、別に師範手當十人扶持を受く、此間兵學、武術を講ずるのみならず、更に又傍儒學を講せり、故を以て現存する六十歳以上の藩士にして、文武何れか、其一先生の教を受けざるなし

實弟彌十郎小林氏を冒し孫兵衛と稱し劔道の外弓術の師範たり町奉行より社番舟奉行に進む、現代明石の誇りとする名士工學博士泰藏小林君は實に其孫なり、先生は斯の如く學術武藝に於て當時藩中第一の巨人たるに止らず其人格正しく言行一致一事一物苟も爲ざる處確に乃木將軍以上にして實賤躬行其範を示し身體強健七十歳の高齡に尙能く適し得る者無かりしと云ふ、一日有名なる市井無賴の兇漢先生の力量を試みむと欲し夜陰卒然白刃を突き出して迫る先生泰然自若唯一言「危い」と手を掩して通過す其膽量想見すべし先生亦頗る詩文に長ず左記は臨終の一絶なり

塵世消搖途已窮 黃泉今即託微躬 從來志業終無遂 韜畧空收一枕中

八十歳風鵬源賴庸恭伯臨終自述
先生は斯くて八十歳を一期とし明治五年七月十六日莞爾として逝けり、嗣は男柳太郎氏にて盡き今其跡なし墓邊四季訪づる者なく殆んど荒廢に頻す唯獨り鷺塚貞操君之を憂ひ時に弔を捧ぐ嗚呼



故

石 卷 清 隆 君

君は、明治維新の風雲に際し故石川季造君と共に明石藩よりの選抜にて明治新政府に登庸せられたる明石出身者中の巨人なりしを以て特に明石藩の名士として宮崎先生と共に採録せり、當時幾千藩士の内より僅に二人其選に當りし人たるに見るも既に尋常人の域を超越したる人物なりし事は今更言ふまでも無し、されど出仕後に於て比較的得意の位置を得ざりしは其原因二あり、即ち一は藩閥の後援なかりしと、一は君自身に於ける中途の挫折なり

君は、當初新政府の地方行政官として出使し東京、大阪、京都の三府を始め神

奈川新潟、兵庫、長崎等各開港地の縣事務官となり、到る處令名あり、十三年當時、彎勇を以て有名なる三島通庸氏の山形縣令たる時、君は同縣小書記官に榮轉し、同氏の下に勤務せり、然るに三島氏は土木縣令と言はれし程に積極主義の方針を以て經營する人なりしに、君は夫れと反對に消極的の民力休養説を主張せし爲め、極端なる衝突をなし、中央政府に歸り情を具して辭するの止む無きに至れり、政府亦其意を諒とし、君を懲慙して司直の人たらしむ、此は明に君の前途に對する一大挫折にして、爾來境遇の變化と共に世俗と遠ざかり、大阪控訴院部長を最高として、依願退職せり、君若し當初の行政官を以て押し通ふし、官海遊泳の術を學び、一面藩閥の後援あらば、少くも縣知事と男爵位を得たりしならむも、性來硬直の資は、遂に其名を大に顯はさずして、終れり、退職後辯護士となり、又松平家の家扶として、盡力し、傍ら後進の誘掖にも盡す處ありたりと云ふ

卷尾に附す

◎明石の地、山來唯風光明、瀨松と月との名所を以て稱せられ、又其名を以て世に著はる、げに周圍を抱擁する翠山、松影の前面更に明月相映する海峽を以てす、其對照佳趣眞に妙云ふべからず、而かも吾輩が此の名所たる天然の風光を説かずして、敢て俗惡なりと云ふ人事に筆を染めたる所以は別に理由あり

◎蓋し人丸歌聖の遺跡、中崎遊園地の松月何れも往の明石には名所たりしなるべく、且つ將來にも或る程度までは其名を保ち得べし、されど文人墨客が風月を友として唯

其筆端に文字の形容詞を羅列せし時代は、最早前世紀の過古に屬し、現代人は多く預らざるなり

◎斯く言へば、とて吾輩を目して直に現代の物質文明のみを憧憬する者なりと斷ずるは、大なる早計なり、吾輩は前者の如き天然の恩惠的風光に甘んじ、讚美せざるに共に、後者の如き總ての道義心をも破壊し盡さむとする倫理の伴はざる物質文明を嫌忌する點に於ては、決して何人の後にも落ちざること、を斷言して憚らざる者なり

◎此に卷頭の告白に一言せる如く、吾輩の

微力を以て敢て本書を刊行せる所以も總ぶるに此の趣旨に外ならざるなり

◎吾輩此の地に來りてより約一ケ年其間委曲明石の表裏を觀察し、略之を盡し得たりと信ず、前掲一百人の紳士先輩、其他尙數十幾名の有力者之れ悉く明石の代表者なり少くも表面を代表する有力なる人々なり

◎之を概活するに、個人としての個々別々に見たる明石人士は極めて温良の紳士にして他の何處地の人と比較するも敢て遜色なきが如しと雖も、明石の全体觀を試みるに至りては聊か物足らぬ感無きのみならず斷じて將來に矯正を要すべき點多々あるべきは識者の等しく認むる處なり

◎明石の位地、東播の勝地を占め、東に阪神の大都を控へ、前面僅に海水を距て、淡路島を擁し、西北亦各主要の地に接す、加之天與の勝景あり既に斯の如き地の利を占む、若し更に人の和を以てせば天下何事成らざる者あらむや

◎吾輩は、此の意味を以て前顯の諸紳が更に意を此の點に及ぼし、陳腐なる常套語の風光明媚なりてふ文學上の形容詞に甘んぜず、更に進んで世間の進運に伴ふ人工的の設備を加へ、更に之を運用し得る時代に適應すべき新人物の養成に力を致さんこと至囑に堪へず

◎本書資料の蒐集に着手して以來殆んど半

歳、徹頭徹尾吾輩一人の力を以てせり、故

に比較的長日月を要せしも不文の資に洗練推敲の時日を缺ぎ、意に満たざるは勿論忽卒不備の點頗る多きは衷心之を慚づ而かも一身上の都合は優遊完成を許さず遂に之を刊行せり、他日素志成るの日必ず再び來つて之を完成すべし、本書は吾輩が滯明一ケ年間の紀念なり見る人之を諒せよ

◎此の他又採録して之を傳ふべき人々尙數十幾名之れ有るは吾輩之を明に認むるも、尠きは一度多きは五たび六たび訪ふて遂に面會する事能はず、或は心善く承諾を與へながら都合よく小照なくて採録し能はざる者十七名に及べり、之等の人には特に謝意

を表す

◎吾輩は終りに臨み、更に公衛團體の上に一瞥を試み、以上の足らざるを補ひ、且つ見る人の参考に資する處あらむと欲す

◎郡役所は何と言つても本郡に於ける人材の淵藪なり第一掛長三幡君は曾て宍粟郡の首席郡書記たり、人物手腕共に當時の郡長を凌ぐ者ありたるも而かも謙讓なる君は其功に誇らず孜孜其職務を忠實に勉め郡民の敬仰を受く本郡に來りてより未だ久しからずと雖も而かも其人物手腕の尋常ならざるは早くも一般郡民の認むる處なり、其他第一掛りには細見、田中、今内、金澤、渡邊等の諸君あり何れも青年錚々の士、殊に細

見君は加古郡以來三輪郡長に従ひ其手腕を振ひ、田中、今内兩君は明石出身にして何れも有爲の前途を有し田中君の事務的才能と頭腦の明晰は更に官人としての前途を有す技手中尾君亦前途ある有爲の資なり

◎第二掛學務の人は別項にあり第三掛會計課長小寺君は明石青年の畸人にして嚴正なる事務的才能は會計に必適人物なり西海君亦久しく學務にあり今本科に移りて小寺君を助く寡言温厚蓋し實務の人なり

◎警察に於ける司法行政の事務の能否如何は直に土地の繁榮と人心風紀の上に大なる影響を生ずべし、新任署長北瓜君姫路藩士にして警察官たるの經歷前任者に優り、縣

下に其職を奉ずる殆んど三十餘年其道の明星たるや明かなり、太田警部補亦事務才能の名高く大西君新進の意氣と素養を以て聞ゆ、明石人士安んじて可なり

◎三萬市民と朝夕相親しみ直接相面して各般の指導施行の衝に當る町役場の代表者町長助役は別項に推せり、庶務八田君は差し向き鷲塚内閣の書記官長たり、其人物と手腕に對する聲望は蓋し山閣山の内翰長を凌ぐこと遙に大なり、首席石井君は殆んど町役場の生字引なり、町内の典例形勢に明なること確に其第一人なり、鎌谷君は其軀の倭少なること明石第一なり而かも其智謀の豊富なること亦明石第一にして時人之を明

石役場の太閤と稱す、されど太閤の大時に尙千慮の一失あり、明石太閤亦時に三思を要すべし黒川君は寡言温良軍隊出身の典型なり、

◎稅務署は、中産以上の市民と直接關係を有する處なるだけ頂來稍々收歛の批難高き者あるも、彼等も人の子衷心より同胞の肉を喰みて快なりとする者にあらざるは固より之を察知し得べく唯其職務に忠實ならむと欲して時に常道を逸する者あるべし監督者たる者宜しく善意に指導して之を矯正する處ある可きなり、

◎農事試驗場、女子師範學校、農學校等は直接市民と關係なしと雖も其之れ有るの故

を以て直間接に市民を益する事の大なるは今更云ふまでも無く殊に師範の北川、農學校の辻川兩教諭が職務以外常に市民と相接し折に觸れ、時を利用して教ふる處多きを聞くは兩氏人物の一面を偲び特に敬意を表す、

◎五十六銀行、明石銀行、實業貯蓄銀行、各々資金の大半等しく明石人士の出資に據りて經營さる、各行各特色あり、其經營の方針固より同一ならずと雖も、互に其信する處を格守し、決して相浸さる者あるは斯界の美風なり而して其間各行等しく青年有爲の人物を養成す、將來有爲の實業家たる人材必ず此の中より輩出せん、